

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年6月24日

【事業年度】 第113期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

【会社名】 株式会社日新

【英訳名】 NISSIN CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 筒井 雅洋

【本店の所在の場所】 横浜市中区尾上町6丁目81番地

【電話番号】 該当事項はありません。

【事務連絡者氏名】 該当事項はありません。

(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区麹町一丁目6番4号

株式会社日新東京本社

【電話番号】 03(3238)6631

【事務連絡者氏名】 経理部長 月岡 元尚

【縦覧に供する場所】 株式会社日新東京本社
(東京都千代田区麹町一丁目6番4号)

株式会社日新大阪事務所
(大阪市中央区瓦町1丁目7番7号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第109期	第110期	第111期	第112期	第113期
決算年月		2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月
売上高	(百万円)	216,924	218,040	197,387	155,915	192,699
経常利益	(百万円)	6,869	6,584	4,114	4,287	9,859
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	5,210	4,426	2,705	2,007	6,365
包括利益	(百万円)	6,960	2,226	163	6,987	9,619
純資産額	(百万円)	61,041	62,070	60,437	65,848	74,406
総資産額	(百万円)	119,494	120,516	118,678	132,973	144,898
1株当たり純資産額	(円)	2,965.95	3,020.69	2,968.03	3,296.04	3,693.10
1株当たり当期純利益	(円)	263.61	223.95	137.13	103.55	329.61
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	49.1	49.5	48.9	47.6	49.4
自己資本利益率	(%)	9.3	7.5	4.6	3.3	9.4
株価収益率	(倍)	10.6	8.3	11.7	14.0	5.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	7,142	6,987	10,801	4,955	9,540
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,131	4,650	6,117	8,938	3,586
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,050	1,266	4,711	1,973	5,438
現金及び現金同等物の 期末残高	(百万円)	17,106	17,846	18,474	16,949	18,168
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数)	(名)	6,066 (878)	6,094 (930)	6,088 (840)	5,868 (790)	5,920 (787)

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 第109期においては国外子会社1社、第113期においては国内子会社2社、国外子会社1社を新たに連結の範囲に含めております。また、第109期においては国外子会社1社、第110期においては国外子会社1社、第112期においては国外子会社1社を連結の範囲から除外しております。
3. 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。第109期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。
4. 第112期以降の1株当たり純資産額の算定において、従業員持株会信託が保有する当社株式を自己株式として処理していることから、期末の普通株式の数から当該株式数を控除しております。また、1株当たり当期純利益の算定においても、期中平均株式数から当該株式数を控除しております。
5. 「収益認識に関する会計基準（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第113期の期首から適用しており、第113期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第109期	第110期	第111期	第112期	第113期
決算年月		2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月
売上高	(百万円)	96,400	99,483	95,865	98,062	112,350
経常利益	(百万円)	3,525	3,356	3,238	2,895	5,146
当期純利益	(百万円)	2,752	2,540	2,545	2,333	2,670
資本金	(百万円)	6,097	6,097	6,097	6,097	6,097
発行済株式総数	(株)	20,272,769	20,272,769	20,272,769	20,272,769	20,272,769
純資産額	(百万円)	38,416	38,490	37,927	41,121	43,368
総資産額	(百万円)	84,524	83,731	83,745	94,991	98,807
1株当たり純資産額	(円)	1,939.68	1,943.47	1,936.13	2,135.82	2,233.57
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額)	(円)	30.00 (5.00)	55.00 (27.00)	56.00 (28.00)	56.00 (28.00)	60.00 (28.00)
1株当たり当期純利益	(円)	138.96	128.25	128.78	120.13	138.04
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	45.5	46.0	45.3	43.3	43.9
自己資本利益率	(%)	7.4	6.6	6.7	5.9	6.3
株価収益率	(倍)	20.2	14.4	12.4	12.1	11.8
配当性向	(%)	36.0	42.9	43.5	46.6	43.5
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数)	(名)	1,509 (113)	1,503 (142)	1,520 (160)	1,636 (131)	1,685 (104)
株主総利回り (比較指標：配当込みTOPIX)	(%) (%)	153.4 (115.9)	105.3 (110.0)	94.6 (99.6)	89.8 (141.5)	102.7 (144.3)
最高株価	(円)	3,590 (603)	2,941	2,015	1,825	1,957
最低株価	(円)	2,541 (356)	1,653	1,163	1,187	1,319

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 従業員数は、就業人員数を記載しております。
3. 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。第109期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。
4. 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。第109期の1株当たり配当額30円は、中間配当額5円と期末配当額25円の合計としております。なお、当該株式併合を踏まえて換算した場合、中間配当額は25円となりますので、期末配当額25円を加えた年間配当額は1株当たり50円となります。
5. 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。
6. 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。第109期の株価については、株式併合後の最高・最低株価を記載し、()内に株式併合前の最高・最低株価を記載しております。
7. 第112期以降の1株当たり純資産額の算定において、従業員持株会信託が保有する当社株式を自己株式として処理していることから、期末の普通株式の数から当該株式数を控除しております。また、1株当たり当期純利益の算定においても、期中平均株式数から当該株式数を控除しております。
8. 「収益認識に関する会計基準(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第113期の期首から適用しており、第113期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

- 1938年12月 川崎市に「日新運輸株式会社」設立
- 1942年10月 横浜市に本店を移転
- 1946年3月 「日新商事株式会社」と商号変更
- 1947年5月 本店を横浜市中区尾上町6丁目84番地に移転
- 1948年11月 神戸支店設置
- 1950年1月 「日新運輸倉庫株式会社」と商号変更
- 1950年4月 東京証券取引所第一部上場
- 1950年4月 横浜港における港湾荷役業を開始
- 1954年7月 本社屋(旧本店事務所)落成
- 1954年11月 東京支店設置
- 1956年6月 神奈川埠頭倉庫株式会社より神奈川倉庫土地、建物を買収し営業開始
- 1958年5月 大阪支店設置
- 1959年12月 札幌営業所を開設
- 1960年4月 川崎営業所を開設
- 1961年8月 神奈川埠頭完成、日新埠頭として埠頭業開始
- 1969年4月 千葉支店設置
- 1969年7月 札幌支店設置
- 1973年5月 大阪証券取引所第一部上場
- 1973年12月 米国に現地法人「NISSIN INTERNATIONAL TRANSPORT U.S.A., INC.」設立
- 1974年1月 香港に現地法人「日新運輸倉庫(香港)有限公司」設立
- 1975年7月 ロンドン支店開設
- 1978年4月 航空旅客部を分離し、「日新航空サービス株式会社」設立
- 1981年4月 札幌支店を分離し、「北海道日新運輸倉庫株式会社」(現商号：株式会社北海道日新)設立
- 1981年10月 東京地区の各事務所を統合し東京事務所設置(東京都千代田区三番町5番地)
- 1983年3月 利用航空運送事業免許取得に伴い、「日新エアカーゴ株式会社」設立
- 1983年10月 シンガポールに現地法人「NISSIN TRANSPORT(S)PTE.LTD.」設立
- 1983年10月 ロンドン支店を分離し、英国に現地法人「NISSIN(U.K.)LTD.」を設立
- 1984年10月 カナダに現地法人「NISSIN TRANSPORT(CANADA)INC.」設立
- 1985年1月 西独に現地法人「NISSIN TRANSPORT GmbH」設立
- 1985年10月 「株式会社日新」(現商号)と商号変更
- 1987年10月 タイに現地法人「SIAM NISTRANS CO.,LTD.」設立
- 1987年12月 オーストリアに現地法人「NISSIN TRANSPORT GES.MBH」設立

1992年4月 フランスに現地法人「NISSIN FRANCE S.A.S.」設立
1992年8月 中国上海市に合弁会社「上海高信貿儲実業有限公司」(現商号：上海高信国際物流有限公司)設立
1994年6月 マレーシアに現地法人「NISTRANS(M)SDN.BHD.」設立
1995年2月 中国常熟市に合弁会社「常熟日新中外運運輸有限公司」設立
1995年3月 関西国際空港内グランドサービスを取扱う「日新エアポートサービス株式会社」設立
1997年4月 ベルギーに現地法人「NISSIN BELGIUM N.V.」設立
1997年12月 フィリピンに合弁会社「NISSIN TRANSPORT PHILIPPINES CORPORATION」設立
1999年5月 インドに合弁会社「NISSIN ABC LOGISTICS PRIVATE LIMITED」設立
2004年8月 インドネシアに現地法人「PT. NISSIN TRANSPORT INDONESIA」設立
2005年3月 ロシア モスクワ市に現地法人「LLC NISSIN RUS」設立
2005年11月 中国北京市に合弁会社「中外運 - 日新国際貨運有限公司」設立
2006年5月 ベトナムに現地法人「NISSIN LOGISTICS(VN)CO.,LTD.」設立
2007年6月 ポーランドに現地法人「NISSIN LOGISTICS POLAND SP.ZO.O.」設立
2009年11月 「鶴見倉庫株式会社」を子会社化
2012年2月 ラオスに合弁会社「LAO NISSIN SMT CO.,LTD」設立
2012年6月 中国深圳市に現地法人「日新倉運(深圳)貨運代理有限公司」設立
2013年10月 「上海高信国際物流有限公司」を子会社化
2014年3月 インドネシアに合弁会社「PT.NISSIN JAYA INDONESIA」設立
2014年5月 本店を現所在地(横浜市中区尾上町6丁目81番地)に移転
2017年1月 マレーシアに現地法人「NISSIN INTERNATIONAL LOGISTICS(M)SDN.BHD.」設立
2017年3月 「常熟日新中外運運輸有限公司」(現商号：日新(常熟)国際物流有限公司)を子会社化
2019年4月 台湾に合弁会社「日新日茂国際物流股份有限公司」設立
2021年6月 「新栄運輸株式会社」「広栄運輸株式会社」を子会社化
2022年1月 中国上海市に特定子会社「日日新国際物流有限公司」設立

3 【事業の内容】

当社グループは、当社と子会社・関連会社77社で構成され、国内外にわたる物流事業をはじめとして、旅行事業及び不動産事業を運営しております。

当社につきましては物流事業及び不動産事業、子会社・関連会社につきましては、物流事業（米州地域4社、欧州地域7社、東南アジア・インド地域17社、中国9社、国内30社の67社）及び旅行事業（9社）、ならびに不動産事業（不動産事業専業1社を含む4社）を営んでおります。

なお、当社グループの連結範囲及び持分法の適用については、連結子会社56社、持分法適用会社5社となっております。

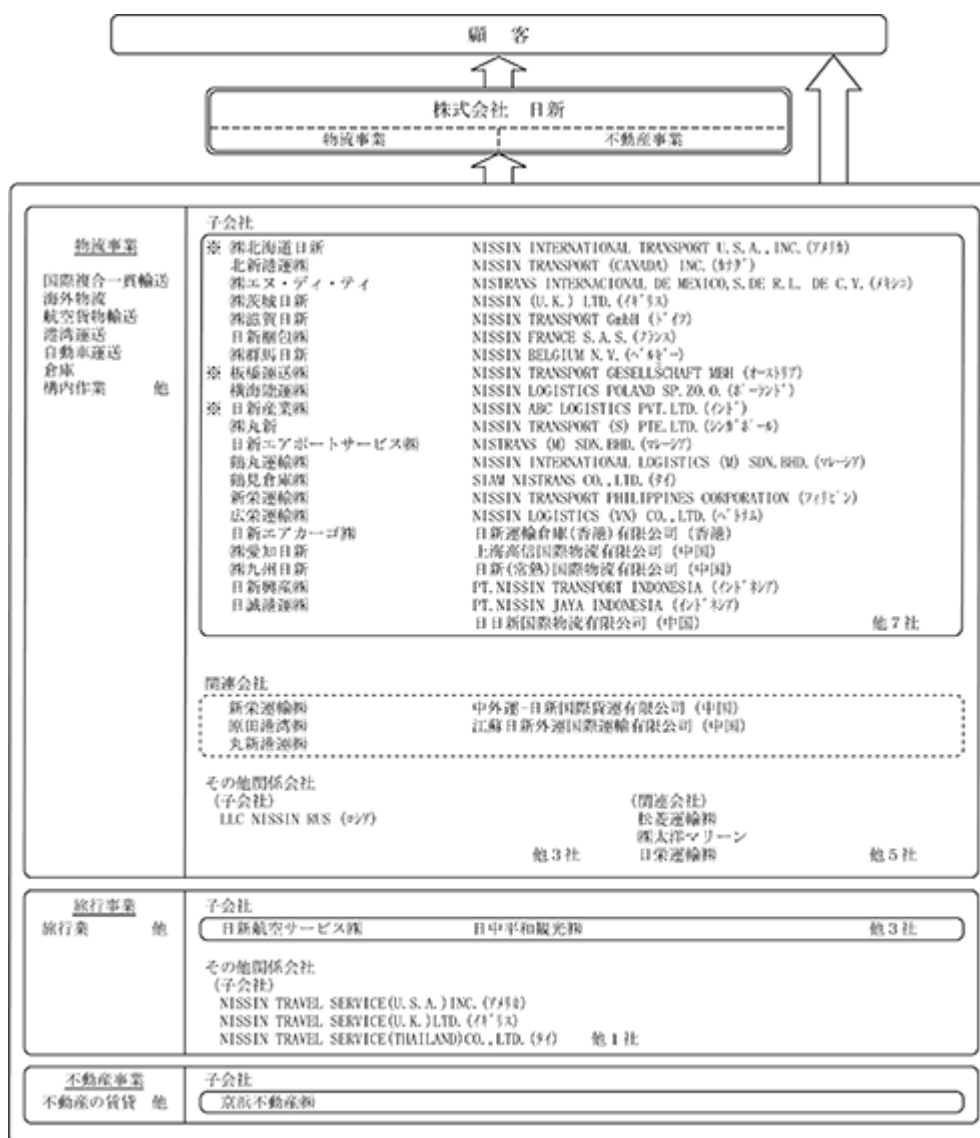
また、当社グループの事業に係る主な位置付け及び報告セグメントとの関連は次のとおりであります。

物流事業……有価証券報告書提出会社（以下(株)日新という）とNISSIN INTERNATIONAL TRANSPORT U.S.A., INC.をはじめとする連結子会社50社、持分法適用会社5社、その他関係会社12社により構成され、各社が連携し国際複合一貫輸送、海外物流、航空貨物輸送、港湾運送、自動車運送、倉庫、構内作業などを行っております。

旅行事業……日新航空サービス(株)をはじめとする連結子会社5社、その他関係会社4社により構成され、主に旅行業を行っております。

不動産事業……不動産事業専業である京浜不動産(株)、不動産事業を兼業する(株)日新及び板橋運送(株)をはじめとする連結子会社3社にて構成され、主に不動産の賃貸を行っております。

当社グループの事業の系統図を報告セグメントとの関連で図示すれば次のとおりであります。



○ 内は連結子会社(56社) ⋯ 内は持分法適用会社(5社)

※ 一部不動産事業を運営しております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の所有 又は被所有 割合(%)	関係内容			
					役員の兼務		営業上の取引	設備の賃貸借
					当社 役員	当社 従業員		
(連結子会社)					名	名		
㈱九州日新	福岡市東区	百万円 450	物流事業	100.00		4	当社の倉庫荷役及び 自動車貨物運送	当社の土地を賃貸して おります。
㈱北海道日新	札幌市白石区	百万円 95	物流事業	100.00		3	当社の倉庫荷役及び カーフェリー輸送	当社の土地を賃貸して おります。
板橋運送㈱	東京都板橋区	百万円 80	物流事業	67.56	1	3	当社の自動車貨物運送	当社への倉庫賃貸を 行っております。
日新産業㈱	横浜市中区	百万円 50	物流事業	100.00		3	当社の構内作業請負	当社の事務所を賃貸し ております。
鶴見倉庫㈱	横浜市鶴見区	百万円 40	物流事業	100.00		4	当社の危険品貨物の 保管及び倉庫荷役	
NISSIN INTERNATIONAL TRANSPORT U.S.A., INC.	Torrance CA, U.S.A.	千US\$ 3,500	物流事業	100.00	2	4	当社の米国における 国際物流事業	
NISSIN (U.K.) LTD. (注) 2, 4	West Drayton, Middlesex, U.K.	千GBP 3,800	物流事業	100.00 (0.03)		3	当社の英国における 国際物流事業	
NISSIN TRANSPORT GmbH	Neuss, Germany	千EUR 2,350	物流事業	100.00		3	当社のドイツにおける 国際物流事業	
SIAM NISTRANS CO., LTD. (注) 3	Bangkok, Thailand	百万THB 25	物流事業	49.00		2	当社のタイにおける 国際物流事業	
NISSIN LOGISTICS (VN) CO., LTD.	Hanoi, Vietnam	千US\$ 500	物流事業	71.00		2	当社のベトナムに おける国際物流事業	
日新運輸倉庫(香港) 有限公司	中国・香港	千HK\$ 7,300	物流事業	100.00	1	4	当社の香港における 国際物流事業	
上海高信国際物流 有限公司 (注) 2, 4	中国・上海	百万CNY 54	物流事業	80.00 (55.00)		5	当社の中国における 国際物流事業	
日日新国際物流有限公司 (注) 2, 4	中国・上海	百万CNY 70	物流事業	100.00 (100.00)		5	当社の中国における 国際物流事業	
日新航空サービス㈱	東京都中野区	百万円 450	旅行事業	96.00	2		当社の海外出張者の 渡航手続き	当社への事務所賃貸を 行っております。当社 の事務所を賃貸して おります。
京浜不動産㈱	横浜市中区	百万円 100	不動産事業	94.20		2	当社への事務所賃貸	当社への事務所賃貸を 行っております。当社 の事務所を賃貸して おります。
その他41社								
(持分法適用関連会社)								
原田港湾㈱ (注) 4	横浜市中区	百万円 75	物流事業	45.73 (1.60)			当社の港湾荷役作業	
丸新港運㈱	大阪市港区	百万円 50	物流事業	50.00		2	当社の港湾荷役作業	
中外運-日新国際貨運 有限公司	中国・北京	百万CNY 21	物流事業	50.00		3	当社の中国における 国際物流事業	
その他2社								

- (注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、報告セグメントの事業の名称を記載しております。
2. 特定子会社に該当しております。
3. 持分は、100分の50以下であります。が、実質的に支配しているため子会社としております。
4. 「議決権の所有又は被所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(2022年3月31日現在)

報告セグメントの名称	従業員数(名)
物流事業	5,685 (778)
旅行事業	217 (9)
不動産事業	18 (-)
合計	5,920 (787)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。
2. 従業員数欄(外書)は、臨時従業員(派遣社員を含む。)の当連結会計年度の平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

(2022年3月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,685 (104)	39.66	13.32	6,845

報告セグメントの名称	従業員数(名)
物流事業	1,675 (104)
不動産事業	10 (-)
合計	1,685 (104)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。
2. 従業員数欄(外書)は、臨時従業員(派遣社員を含む。)の当事業年度の平均雇用人員であります。
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

提出会社の労働組合は全日本運輸産業労働組合連合会に属し、組合員は1,057名(出向の組合員85名を含む)でユニオンショップ制であります。

連結会社の中には労働組合を有するものがあり、それらは全日本運輸産業労働組合連合会またはサービス・ツーリズム産業労働組合連合会等に属しております。

なお、労使関係については概ね良好であります。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものです。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、社名の由来である「日々新たに、また、日に新たなり」の精神を基本に、自己革新を続けながら、安全・迅速・低コストに高品質な物流・旅行サービスを提供することで、豊かな社会の実現に貢献するとともに、お客様との間に信頼を築き上げながら企業価値を高め、株主をはじめとする全てのステークホルダーのご期待に応えることを経営の基本方針としています。

この基本方針を実現するために、当社グループは、経済・社会の発展に不可欠である物流事業をはじめ旅行業などの関連事業を、企業倫理・法令遵守の徹底及び地球環境保全への積極的な取り組みなど企業の社会的責任(CSR)をはたしながら、グローバルに展開していくことを目指しています。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、2022年3月22日に2023年3月期から2027年3月期までの5年間を対象とする第7次中期経営計画「Nissin Next 7th」を公表いたしました。数値目標については、物流事業において旺盛な貨物需要が当面の間、継続が見込まれること、旅行事業においても入国規制の緩和等により海外業務渡航の取扱いの回復が見込まれることから、2022年5月16日にフェーズ1（2024年3月期）の数値目標を修正しております。

フェーズ1（2024年3月期）及びフェーズ2（2027年3月期）の目標数値は下記のとおりとなります。

	2022年3月期（実績）	フェーズ1	フェーズ2
		2024年3月期（目標）	2027年3月期（目標）
売上高	1,926億円	1,900億円	2,750億円
営業利益	90億円	85億円	110億円
経常利益	98億円	90億円	115億円
当期純利益	63億円	65億円	86億円
自己資本利益率（ROE）	9.4%	8.0%程度	9.0%程度

(3) 経営環境

世界経済の先行きは、地政学リスクの高まりによる資源価格の高騰や、新型コロナウイルスの新たな変異株の影響、気候変動の増大等、不透明な状況が続くものと見込まれます。また、脱炭素社会実現に向けた社会の取り組みは今後ますます加速し、産業構造が大きく変わる、まさに時代の転換期を迎えようとしています。

当社グループにおいては、物流事業では、旺盛な貨物需要は当面継続すると見込むものの、スポット案件の剥落等が予想されます。旅行事業においては、入国規制の緩和等により海外業務渡航の取扱いは徐々に回復に向かうものの、本格的回復にはなお時間を要すると見込まれます。

(4) 中長期的な会社の経営戦略

本年4月にスタートした第7次中期経営計画(2022年4月~2027年3月)では、次の新たな姿に変貌していくという観点から、計画を「Nissin Next 7th」(NN7)と名付け、グループ一丸となって、次のステージに進んでまいります。「NN7」は新たな試みとして5年間を二つの期間に分け、フェーズ1の2年間で、強固な経営基盤を確実に構築し、フェーズ2の3年間で大きな飛躍を実現、より高い企業価値の創造を目指してまいります。

第7次中期経営計画での主要な取り組みは以下のとおりです。

[フェーズ1]2022年4月~2024年3月

<次世代(Society5.0)に適應する事業基盤の構築>

1. DXの推進

営業、現業、管理の3つの領域でDXを加速、強化します。

2. ESG経営の推進

特定したマテリアリティのリスクと機会への取り組みを「サステナビリティ委員会」とそれを実践する「サステナビリティ推進室」を設け対応、推進します。

3. 事業ポートフォリオ戦略の推進

営業体制を産業別の体制に再編するとともに、3次元(事業別、産業別、地域別)での事業管理体制を整え、更なる事業拡大を目指します。

[フェーズ2]2024年4月~2027年3月

<施策の確実な実行とさらなる成長の実現>

1. フェーズ1で構築した事業基盤・経営基盤を活用し、企業価値を高める新しい施策を実行していきます。
2. これまで培ってきたグローバル・ロジスティクス・プロバイダーとしてのサービス提供に加え、産業ごとの構造変化に合わせたサービスを提供します。
3. 新領域事業として、従来とは異なる発想によって生み出す新たな物流関連事業にも挑戦し、企業価値を高めていきます。

(5) 優先的に対処すべき課題

事業基盤・経営基盤の強化

中長期的な視野で新しい社会に対応していくために、「事業ポートフォリオ戦略の推進」、「ESG経営の推進」、「DXの推進」の3点に重点を置き、各施策を確実に実行することで、事業基盤の拡大、経営基盤の強化を進めてまいります。

昨年稼働した新基幹システムを活用しデータ分析を進め、効率性の向上や生産性を高めるとともに、目標達成に向けた体制整備を進めてまいります。

新領域事業への挑戦

事業戦略部内に「新規事業開発室」を設置し、新規事業の調査研究・発掘・事業化を推進してまいります。

旅行事業対応

旅行事業の収益悪化による連結業績への大きな影響が出ており、グループとしての取り組みが急務なことから、経費削減策を計画通り遂行いたしました。今後の入りの拡大については、デジタル化の推進やグループの連携を生かした営業強化を進めてまいります。

多様性、人材確保と育成

社内に多様な視点や価値観が存在することは、持続的な成長を続ける上で必要との認識から、従来より性別、国籍に関係なく採用を行っており、管理職に占める女性社員の比率については目標を設定し、その達成に向け取り組みを進めております。

人材育成においては、グローバル人材の育成をはかるべく教育カリキュラムの拡充を進めてまいります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績等に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものを想定しています。

本項には、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は有価証券報告書提出日（2022年6月24日）現在において、当社グループが判断したものであり、ここに掲げられている項目に限定されるものではありません。

(1) 感染症・伝染病によるリスク

当社グループでは、世界24ヶ国/地域でグローバルな事業を展開しておりますが、新型コロナウイルス等感染症の拡大や新たな伝染病が発生した場合、従業員の健康と安全の確保を最優先とした感染防止のための営業活動の制限、顧客の事業活動の縮小・停止などによる物流需要の減少や、出張などの旅客需要の落ち込みによる売上高の減少等により、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

このため、当社グループでは危機管理規程に基づく事業継続計画（BCP）の整備をはじめ、テレワークやWEB会議の実施、ペーパーレスの推進による業務効率化、医薬品衛生用品の備蓄、及び感染症対策マニュアルに基づく有効な感染予防策を講じ、事業継続とサービス提供が可能な体制を構築しております。

(2) 気候変動・自然災害によるリスク

当社グループでは、グローバルに事業を展開していることから、地球温暖化対策の国際的な枠組みを定めた協定の採択や各国でのSDGs達成に向けた取り組み等により、気候変動対策のための様々な環境規制、それに伴う顧客の事業活動の変化による物流需要の減少、及び新たな設備投資等による費用負担増加が予想されます。また、地震、津波、高潮、洪水、台風、集中豪雨等の大規模自然災害による港湾施設や倉庫、事業所への甚大な被害により事業継続に影響が発生した場合、その機会喪失による売上高の減少や施設の損害額等により、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

このため、当社グループでは施設におけるLED照明導入等の省エネ対策の強化や、環境負荷の少ない車両・機器設備の導入等によるCO2排出量の低減化に取り組むとともに、自然災害により指揮命令系統に支障が発生した場合、早期復旧を可能とする危機管理規程に基づいたBCPの整備に努めております。

(3) 法的規制等によるリスク

事業免許等について

当社グループでは、物流事業、旅行事業、不動産事業において国内外の各種法規制に基づく事業免許等を取得しております。万が一、法的要件不備のまま事業を行った場合、営業停止、免許の取消等の様々な行政罰や課徴金の発生等により、当社グループの社会的信用の低下、それに伴う売上高の減少や損害賠償費用等、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

輸出入業務関連法令について

当社グループでは、国内事業においては、通関業法をはじめ港湾運送事業法、貨物利用運送事業法等の物流及び輸出入業務に係る様々な法規制の対象となっており、同様に海外事業においても進出先・輸出先国の法規制等の対象となっております。万が一、法令違反が発生した場合、営業停止等の制裁による日常業務の制限や課徴金の発生等により、当社グループの社会的信用の低下、それに伴う売上高の減少や損害賠償費用等、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

法令遵守について

当社グループでは、前出の事業免許等や輸出入業務関連法令のみならず、国内外の各事業において様々な法規制を受けております。万が一、違反行為等による不祥事が発生した場合には、当社グループの社会的信用の低下、それに伴う売上高の減少や損害賠償費用等により、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

このため、当社グループでは、免許等の要件の維持と法規制改正等の定期的な更新、業務マニュアル・業務手順書等の作成・改定、定期的な従業員教育、報告管理体制の整備、法令遵守や企業倫理向上のための企業行動指針である「日新企業行動憲章」や「コンプライアンス・マニュアル」をはじめとする各種社内関連諸規程等を含め、研修等を通じて従業員への周知と教育の充実を図っております。また、コンプライアンス委員会によるコンプライアンス活動の実践、内部通報制度の整備等、法令遵守を推進する体制を構築しております。

(4) 固定資産の減損リスク

当社グループでは、土地、建物等をはじめとする有形固定資産を保有し、また他社の買収や投資時にはのれん等の無形固定資産が発生することがあります。土地、建物等については時価下落や収益性低下等が生じた場合、のれんについては投資先の収益が買収時の想定を大幅に下回り、かつ将来の回復が見込めず投資額の回収可能性が低いと判断される場合には、固定資産の減損損失の計上が必要となり、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

このため、当社グループにおいては、新規投資の際には投資額の適正性や将来の収益性を十分に評価・検討した上で、経営会議、取締役会において厳正な投資判断を行っております。

(5) 人材確保のリスク

当社グループでは、主要事業である物流事業及び旅行事業は、質の高い人材の確保や適正な人員配置が重要であり、人材を継続的に採用し、労働環境の整備や教育体制の充実等を図っておりますが、労働需給が逼迫している中、トラックドライバーの高齢化を背景として、ドライバーが確保できない場合や、採用計画に基づく人材を複数年に渡り十分に確保できなかった場合、売上高の減少等により、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

このため、当社グループにおいては、賃金制度や評価制度の拡充、採用計画に基づく新卒の定期採用、中途採用の適宜実施、従業員エンゲージメント向上のための教育・研修制度、適切な人材配置、及び嘱託再雇用制度の導入により必要な人材確保に努めております。

(6) 事故によるリスク

当社グループでは、火災等の不測の事故が発生した場合、当社グループの社会的信用の低下、それに伴う売上高の減少や損害賠償費用等により、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

このため、当社グループでは、労働安全衛生法等に則った安全衛生管理体制の整備、安全パトロールの実施や従業員向けの安全啓発教育を通じ、未然に事故を防止する労働環境の構築に努めております。また、倉庫などの保有施設に対し、各社が個別に保険を付保するとともに、グループ会社を包括した包括賠償責任保険の付保を一部実施しております。

(7) コンプライアンス・内部統制のリスク

当社グループの従業員及び取締役は、企業理念に掲げる「高い倫理観を堅持しつつ、グローバルに、自由で公正な企業活動を遂行する」精神のもと、法令遵守はもとより社会規範に則した公明正大な企業活動に取り組んでおります。しかしながら、万が一、従業員及び取締役による重大な法令違反や不正行為等が発生した場合には、当社グループの社会的信用の低下、それに伴う売上高の減少や損害賠償費用等により、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

このため、当社グループでは法令遵守や企業倫理向上のため、企業行動指針である「日新企業行動憲章」をはじめ「コンプライアンス・マニュアル」等の整備やコンプライアンス研修の徹底を図るとともに、内部通報制度の導入や、内部統制システムの整備及び内部統制評価委員会の設置等、実効性の高いコンプライアンス体制の構築と内部統制機能の強化を図っております。

(8) 情報関連のリスク

当社グループでは、物流事業、旅行事業、不動産事業の業務受託に際し顧客情報をはじめとする重要情報を取り扱っております。万が一、情報の外部漏洩やデータ喪失などの事態が生じた場合や、コンピュータウイルスやサイバー攻撃等により長期間情報システムに重大な障害が発生するような事態が生じた場合、事業活動の停滞や顧客への損害を与えることとなり、当社グループの社会的信用の低下、それに伴う売上高の減少や損害賠償費用等により、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

このため、当社グループでは、情報保護に関してはその重要性を十分認識し「コンプライアンス・マニュアル」等に基づく情報管理を徹底し、また最新セキュリティソフトの導入や定期的なデータバックアップ、社内訓練や教育・啓蒙を通じて、リスクの低減化に努めております。

(9) 過重労働のリスク

当社グループにおいて、過重労働や不適切な労務管理、またそれらを主因とする労働災害等が発生した場合、当社グループの社会的信用の低下、それに伴う売上高の減少や損害賠償費用等により、当社グループの財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

このため、当社グループにおいては、36協定をはじめとする労務管理関連法令の遵守のみならず、職場における労働時間の適正化、従業員への労務管理教育を図り、安全安心な労働環境の整備に努めております。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、

売上高は、192,699百万円（前連結会計年度比123.6%）

営業利益は、9,098百万円（前連結会計年度比348.4%）

経常利益は、9,859百万円（前連結会計年度比230.0%）

親会社株主に帰属する当期純利益は6,365百万円（前連結会計年度比317.1%）となりました。

なお、当連結会計年度より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。このため、前年同期比較は基準の異なる算定方法に基づいた数値を用いております。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）及び（セグメント情報等）2.報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法」をご参照ください。

（単位：百万円）

	2021年3月期 (2020年度) 実績	2022年3月期 (2021年度) 実績	前期比	
			増減額	率
売上高	155,915	192,699	36,783	123.6%
営業利益	2,611	9,098	6,487	348.4%
経常利益	4,287	9,859	5,572	230.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,007	6,365	4,358	317.1%

セグメントごとの経営成績の概況は次のとおりです。

（ ）物流事業

【日本】

航空輸出では自動車関連貨物をはじめ電子部品や化学品、半導体関連貨物等の取扱いが好調に推移し、輸入では、食品、園芸関連等が堅調でした。海上輸出では化学品が堅調に推移し、輸入については食品や家電製品等の取扱いが底堅く推移しました。

【アジア】

自動車関連貨物の取扱いはアジア全域で好調に推移しました。タイでは二輪車の欧米向け海上輸出が収益に貢献したほか、プロキユアメント力の強化により海上、航空ともに輸出物量が増加しました。ベトナムでは中国向け電子部品の航空輸出及び米国向け家電製品の海上輸出が順調でした。

【中国】

香港では家電製品、電子部品の航空輸出の好調が続きました。海上輸出においては本船の運行遅延等が発生する中、輸送スペースの確保に努め北米向け家電製品をはじめ取扱いが増加しました。上海では航空輸出入貨物の取扱いが堅調に推移しました。

【米州】

米国では海上コンテナ不足や港湾混雑による海上輸入貨物の国内代替輸送の継続が大きく収益に貢献しました。自動車関連貨物は航空輸送が輸出入ともに好調に推移し、食品関連では航空輸出の取扱いが増加しました。また、10月には米国テネシー州に自動車関連貨物の新倉庫を開設しました。

【欧州】

ドイツでは家電製品の倉庫保管・域内配送業務が引き続き堅調でした。ベルギーでは自動車関連貨物の堅調な取扱いに加え、食品及び医薬品関連の航空輸出も好調でした。ポーランドでは倉庫保管、域内配送業務の取扱いが増加しました。オーストリアにおいてはチャーター機を使った中国からのコロナ検査キットの航空輸入が収益に寄与しました。

この結果、売上高は前連結会計年度に比べ25.5%増の188,961百万円、セグメント利益（営業利益）は前連結会計年度に比べ125.8%増の9,372百万円となりました。

（ ）旅行事業

国内旅行については若干の取扱い増加が見られたものの、海外業務渡航においては取扱人数の本格的な回復には至りませんでした。経費削減施策については計画通り遂行いたしました。

この結果、売上高は前連結会計年度に比べ39.8%減の2,535百万円、セグメント損失（営業損失）は1,053百万円（前連結会計年度 セグメント損失（営業損失）2,315百万円）となりました。

（ ）不動産事業

昨年9月の緊急事態宣言の解除後に観光客の増加による駐車場収入が増加しましたが、賃貸物件の家賃収入は減少しました。

この結果、売上高は前連結会計年度に比べ6.2%増の1,609百万円、セグメント利益（営業利益）は前連結会計年度に比べ1.5%減の765百万円となりました。

当社グループは、2022年3月期を最終年度とする第6次中期経営計画（2017年4月～2022年3月）において、定量目標を設定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響による世界経済環境の変化が著しく、達成が困難なものと判断し、2020年11月に取り下げをいたしました。

第6次中期経営計画の1年目は順調に進捗しましたが、2年目の下期より米中摩擦の影響で主に自動車関連貨物の荷動きが弱まり、特に航空貨物の減少が目立ち始めました。3年目に入っても世界経済の減速に回復の動きが見られず、第4四半期には新型コロナウイルスの世界的蔓延が表面化し、物流、旅行ともに収益に大きな影響を受けました。

4年目も新型コロナウイルスの影響が継続しましたが、物流事業は7月以降徐々に貨物量の回復が始まり、下期以降は世界的な海上コンテナ不足による航空需要の拡大等もあり、業績が急回復しました。

最終年度である5年目は、海上、航空ともに旺盛な貨物需要に対応したほか、スペース不足や港湾混雑の中、専門性を活かしたサービスの提供等により好調な取扱いが継続しました。旅行事業においては、厳しい経営環境が続く中、経費削減施策の遂行により営業損失額は大幅に改善しました。

各種指標の推移は以下のとおりです。

	第6次中期経営計画				
	2018年3月期 (2017年度)	2019年3月期 (2018年度)	2020年3月期 (2019年度)	2021年3月期 (2020年度)	2022年3月期 (2021年度)
	実績	実績	実績	実績	実績
売上高	2,169億円	2,180億円	1,973億円	1,559億円	1,926億円
営業利益	63億円	56億円	35億円	26億円	90億円
経常利益	68億円	65億円	41億円	42億円	98億円
当期純利益	52億円	44億円	27億円	20億円	63億円
営業利益率	2.9%	2.6%	1.8%	1.7%	4.7%
自己資本比率(ROE)	9.3%	7.5%	4.6%	3.3%	9.4%

(2) 財政状態

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ11,924百万円増加の144,898百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ8,703百万円増加の62,209百万円となりました。これは主に、海上、航空ともに旺盛な貨物需要が継続したことなどから売上高が増加し、受取手形及び売掛金が5,184百万円増加したこと等によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ3,220百万円増加の82,688百万円となりました。これは主に、第6次中期経営計画における大型設備投資として新倉庫を建設したことにより建物及び構築物が5,373百万円増加したことや、新たに土地を取得したことにより土地が848百万円増加したこと等によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ3,366百万円増加の70,491百万円となりました。その主な要因は、次のとおりであります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ4,991百万円増加の38,815百万円となりました。これは主に、売上高が増加したことにより売上原価も増加し、支払手形及び買掛金が2,471百万円増加したこと等によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ1,625百万円減少の31,676百万円となりました。これは主に、社債の返済により社債が1,000百万円減少したこと等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ8,558百万円増加の74,406百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が5,119百万円増加したことや、その他有価証券評価差額金が591百万円増加したこと等によるものです。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末より1.8ポイント増の49.4%となりました。

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減
流動資産	53,506	62,209	8,703
固定資産	79,467	82,688	3,220
資産合計	132,973	144,898	11,924
流動負債	33,824	38,815	4,991
固定負債	33,301	31,676	1,625
負債合計	67,125	70,491	3,366
純資産合計	65,848	74,406	8,558

(3) キャッシュ・フロー

<キャッシュ・フローの状況>

当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は18,168百万円で、前連結会計年度末に比べ1,219百万円の資金の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは9,540百万円の収入となり、前連結会計年度に比べ4,584百万円収入が増加しました。その主な要因は、税金等調整前当期純利益が増加したこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは3,586百万円の支出となり、前連結会計年度に比べ5,351百万円支出が減少しました。その主な要因は、有形固定資産の取得による支出が減少したこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは5,438百万円の支出となり、前連結会計年度に比べ7,412百万円収入が減少しました。その主な要因は、長期借入れによる収入が減少したこと等によるものです。

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,801	4,955	9,540
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,117	8,938	3,586
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,711	1,973	5,438

キャッシュ・フロー指標の状況

自己資本比率及び時価ベースの自己資本比率、債務償還年数、インタレスト・カバレッジ・レシオは次のとおりであります。

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
自己資本比率(%)	48.9	47.6	49.4
時価ベースの自己資本比率(%)	26.3	21.0	21.9
債務償還年数(年)	2.8	7.2	3.7
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	25.8	11.7	23.2

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

債務償還年数：有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー / 利払い

- (注) 1. いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。
2. 株式時価総額は、期末株価終値 × 期末発行済株式数(自己株式控除後)により算出しております。
3. 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。
4. 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

<資金需要について>

当社グループの主な運転資金需要は、貨物輸送運賃や旅客運賃、倉庫や港湾施設等の賃借料、及び人件費経費等であります。主な設備投資資金需要は、新倉庫の建設や施設増強工事、車両及びシステム投資等に関するものであります。また、第6次中期経営計画における設備投資は、海外・国内の物流施設への拡充を中心に順調に推移し、当連結会計年度は総額5,359百万円の設備投資を実施しました。

<資金の流動性について>

当社グループは、主要な連結子会社にキャッシュ・マネジメント・システム（CMS）を導入し、日本国内のグループ内資金を当社が一元管理しております。各グループ会社において創出したキャッシュ・フローを当社に集中することで資金の流動性を確保し、また、機動的かつ効率的にグループ内で配分することにより、金融負債の極小化を図っております。

<資金の調達>

現在そして将来の営業活動及び債務の返済等の資金需要に備え十分な資金を確保するために、資金調達及び流動性の確保に努めております。必要な資金は、主に営業活動によって得られるキャッシュ・フローの他、金融機関等からの借り入れ及び社債発行によって調達しております。

(4) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表を作成するに当たって、資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を用いておりますが、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

連結財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは「第5 経理の状況

1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載しております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、国内外における施設増強工事等により諸施設の強化・拡充を図り、また各種のシステム改修により、無形固定資産及び長期前払費用を含め、総額5,359百万円の設備投資を実施しました。

報告セグメント別の主要な設備投資について示すと、次のとおりであります。

物流事業

物流事業においては、海外では、シンガポールで新たに倉庫のリース契約を締結するなど各地で拠点整備を進める一方、国内においては、新倉庫建設や土地取得などによる営業施設の充実及び業務システムの更改等のシステム投資に努めるなど、総額で5,340百万円の設備投資を実施しました。

当期に完成した主な資産は以下のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	面積 (㎡)	投資額 (百万円)	完了年月	完成後の 増加能力
提出会社	横浜重量物梱包センター (横浜市中区)	物流事業	物流倉庫	14,974	3,087	2021年6月	延床面積 10,085 ㎡

旅行事業

旅行事業においては、システム関連等に、総額で16百万円の設備投資を実施しました。

不動産事業

不動産事業においては、総額で2百万円の設備投資を実施しました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(2022年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	面積(m ²)	帳簿価額(百万円)					従業員 数 (名)
				建物及び 構築物	土地	借地権	その他	合計	
横浜地区									
万国橋営業所 (横浜市中区)	不動産事業	車庫	<12,345> 12,345	<4> 4	<737> 737	-	<0> 0	<742> 742	-
南本牧物流センター (横浜市中区)	物流事業	物流倉庫	(2,311) 9,845	205	550	-	1	756	-
本牧事業所 (横浜市中区)	物流事業	物流倉庫 バンブール	1,000	38	82	-	3	124	23
大黒埠頭倉庫営業所 (横浜市鶴見区)	物流事業	物流倉庫 港湾施設	(5,564) <1,818>	391	-	65	54	511	5
新興倉庫営業所 (横浜市鶴見区)	物流事業	物流倉庫	11,570	172	6	-	22	201	11
陸運事業所 (横浜市鶴見区)	物流事業	車庫	8,229	14	367	-	9	391	12
川崎化成品油槽所 (川崎市川崎区)	物流事業	物流倉庫 野積地	12,709	412	1,677	-	58	2,149	-
横浜重量物梱包センター (横浜市中区)	物流事業	物流倉庫	14,974	2,838	-	-	190	3,029	4
東京地区									
東京冷蔵倉庫 (東京都江東区)	物流事業 不動産事業	物流倉庫 賃貸用土地	<5,848> 9,649	48	<102> 169	-	9	<102> 228	4
大井倉庫 (東京都大田区)	物流事業	物流倉庫	(11,000)	282	-	-	4	287	54
平和島冷蔵物流センター (東京都大田区)	物流事業	物流倉庫	6,186	3,162	61	-	443	3,667	12
千葉地区									
千葉支店 (千葉市中央区)	物流事業 不動産事業	物流倉庫 車庫	(5,880) <5,832> 5,832	56	<95> 95	2	3	<95> 157	17
習志野事業所 (千葉県習志野市)	物流事業	ふ頭 野積地	29,208	54	1,434	-	2	1,490	4
成田ロジスティクスセンター (千葉県山武郡芝山町)	物流事業	物流倉庫	10,000	407	613	-	27	1,047	4

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	面積(m ²)	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	土地	借地権	その他	合計	
大阪地区									
南港西倉庫 (大阪市住之江区)	物流事業	物流倉庫 港湾施設	<17,522> 17,522	<14> 25	<1,159> 1,159	-	<0> 0	<1,174> 1,185	-
南港倉庫 (大阪市住之江区)	物流事業	物流倉庫	7,944	663	1,791	-	13	2,468	65
南港第二倉庫 (大阪市住之江区)	物流事業	物流倉庫	<4,459> 4,459	<8> 8	<330> 330	-	<0> 0	<334> 339	-
南港航空貨物センター (大阪市住之江区)	物流事業	物流倉庫	1,635	58	316	-	-	374	4
堺ロジスティクスセンター (大阪市堺区)	物流事業	物流倉庫	32,522	4,192	3,401	-	100	7,694	11
神戸地区									
L-13後背地 (神戸市中央区)	物流事業 不動産事業	港湾施設	<3,592> (10,807)	<9> 16	-	<141> 430	<0> 1	<152> 448	8
神戸港国際流通センター (神戸市中央区)	物流事業	物流倉庫 港湾施設	(9,986)	433	-	-	-	434	5
摩耶西冷蔵倉庫 (神戸市灘区)	物流事業	物流倉庫	4,140	983	447	-	484	1,914	-
摩耶冷蔵倉庫 (神戸市灘区)	物流事業	物流倉庫	6,615	196	1,154	-	282	1,632	9
摩耶センター (神戸市灘区)	不動産事業	賃貸施設	<3,380> 3,380	<9> 9	<205> 205	-	-	<214> 214	-
九州地区									
九州日新アイランドシティ ロジスティクスセンター (福岡市東区)	物流事業	物流倉庫	14,702	-	1,780	-	-	1,780	-

(注) 1. 投下資本額は帳簿価額により建設仮勘定は含んでおりません。
2. 上記(外書)は、連結会社以外からの賃借設備であります。
3. 上記<内書>は、連結会社以外への賃貸設備であります。

(2) 国内子会社

(2022年3月31日現在)

会社名(所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	面積(m ²)	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	土地	借地権	その他	合計	
㈱北海道日新 (札幌市白石区)	物流事業	物流施設	(5,616) <6,470> 22,160	22	<56> 163	2	228	<56> 416	96
板橋運送㈱ (東京都板橋区)	物流事業 不動産事業	物流施設 賃貸ビル	<11,552> 26,550	<837> 1,004	<604> 876	-	28	<1,849> 1,909	19
日新産業㈱ (横浜市中区)	物流事業	物流施設	<2,609> 2,609	<115> 115	<208> 208	-	10	<323> 323	419
鶴丸運輸㈱ (大阪府泉大津市)	物流事業	物流施設	2,448	-	158	-	35	195	19
鶴見倉庫㈱ (横浜市鶴見区)	物流事業	物流施設	26,527	427	3,190	-	24	3,649	33
㈱九州日新 (福岡市東区)	物流事業	物流施設	8,280	2,640	627	-	143	3,411	118
日新航空サービス㈱ (東京都中野区)	旅行事業	事務所	7,166	-	31	-	-	31	178
京浜不動産㈱ (横浜市中区)	不動産事業	賃貸ビル	<898> 898	-	<423> 423	-	-	<423> 423	8

- (注) 1. 投下資本額は帳簿価額により建設仮勘定は含んでおりません。
2. 上記(外書)は、連結会社以外からの賃借設備であります。
3. 上記<内書>は、連結会社以外への賃借設備であります。

(3) 在外子会社

(2022年3月31日現在)

会社名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	面積(m ²)	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	土地	借地権	その他	合計	
NISSIN INTERNATIONAL TRANSPORT U.S.A., INC. (Torrance, California, U.S.A.)	物流事業	物流施設	(8,000) 266,722	472	300	-	94	867	285
NISSIN TRANSPORT (CANADA) INC. (Mississauga, Ontario, Canada)	物流事業	物流施設	76,000	399	102	-	60	563	60
NISSIN (U.K.) LTD. (Middlesex, U.K.)	物流事業	物流施設	21,084	244	329	-	288	863	100
NISSIN TRANSPORT GmbH (Neuss, Germany)	物流事業	物流施設	(42,597)	798	-	-	90	888	126
日新運輸倉庫(香港)有限公司 (Hong Kong, China)	物流事業	物流施設	-	735	-	-	27	762	136
SIAM NISTRANS CO., LTD. (Bangkok, Thailand)	物流事業	物流施設	(13,492) 37,953	885	496	-	252	1,634	731
NISSIN TRANSPORT (S) PTE. LTD. (Singapore)	物流事業	物流施設	(4,100)	648	181	-	47	877	59
NISTRANS(M)SDN. BHD. (Selangor Darul Ehsan, Malaysia)	物流事業	物流施設	(14,606) 34,580	292	157	-	0	450	8
上海高信国際物流有限公司 (Shanghai, China)	物流事業	物流施設	(38,868)	413	875	-	150	1,439	275
NISSIN INTERNATIONAL LOGISTICS (M)SDN. BHD. (Selangor Darul Ehsan, Malaysia)	物流事業	物流施設	(13,000)	496	-	-	78	575	164

- (注) 1. 投下資本額は帳簿価額により建設仮勘定は含んでおりません。
2. 上記(外書)は、連結会社以外からの賃借設備であります。

3. リース契約による主な賃借設備は次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
NISSIN (U.K.) LTD. (Middlesex,U.K.)	物流事業	倉庫他	335	350
NISSIN INTERNATIONAL TRANSPORT U.S.A., INC. (Torrance,California,U.S.A.)	物流事業	倉庫他	525	1,677
NISSIN TRANSPORT GmbH (Neuss, Germany)	物流事業	倉庫他	264	852
日新運輸倉庫(香港)有限公司 (Kowloon,Hong Kong)	物流事業	倉庫他	468	814
NISSIN ABC LOGISTICS PRIVATE LIMITED (Kolkata,India)	物流事業	倉庫他	249	609

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	面積(m ²)	投資予定金額 (百万円)	資金調達 方法	着工及び完了予定		完成後の 増加能力
							着手年月	完了予定年月	
提出会社	神奈川埠頭 危険物倉庫(仮称) (横浜市中区)	物流事業	物流倉庫	8,572	4,097	自己資金 及び借入金	2022年5月	2023年9月	延床面積 21,389m ²

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2022年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2022年6月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可 金融商品取引業協会名	内容
普通株式	20,272,769	20,272,769	東京証券取引所 市場第一部(事業年度末現在) プライム市場(提出日現在)	単元株式数は、 100株であります。
計	20,272,769	20,272,769		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2017年10月1日 (注)	81,091,077	20,272,769		6,097		4,366

(注) 株式併合(5:1)によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

2022年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		28	26	155	93	5	3,039	3,346	
所有株式数(単元)		90,874	1,719	36,894	24,959	15	47,804	202,265	46,269
所有株式数の割合(%)		44.93	0.85	18.24	12.34	0.01	23.64	100.00	

(注) 1. 自己株式446,378株は、「個人その他」に4,463単元、「単元未満株式の状況」に78株含まれております。
2. 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が4単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2022年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	2,065	10.41
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	986	4.97
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	986	4.97
株式会社横浜銀行	横浜市西区みなとみらい3丁目1番1号	978	4.93
日新商事株式会社	東京都港区芝浦1丁目12番3号	890	4.48
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	735	3.70
日新社員持株会	東京都千代田区三番町5	703	3.54
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	649	3.27
日新共栄会	東京都千代田区三番町5	531	2.68
INTERACTIVE BROKERS LLC (常任代理人 インタラクティブ・ブローカーズ証券株式会社)	米国・コネチカット (東京都千代田区霞が関3丁目2番5号)	445	2.24
計		8,972	45.25

(注) 1. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,065千株
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	575千株

2. 上記のほか当社所有の自己株式446千株があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 446,300		
	(相互保有株式) 普通株式 83,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,696,700	196,967	
単元未満株式	普通株式 46,269		
発行済株式総数	20,272,769		
総株主の議決権		196,967	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。また、「議決権の数(個)」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式78株が含まれております。
3. 従業員持株会信託が所有する当社株式409,800株(議決権の数4,098個)は、「完全議決権株式(その他)」の欄に含めて表示しております。

【自己株式等】

2022年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社日新	横浜市中区尾上町 6丁目81番	446,300		446,300	2.20
(相互保有株式) 原田港湾株式会社	横浜市中区海岸通 4丁目23番地	46,800		46,800	0.23
松菱運輸株式会社	大阪市西区西本町 2丁目1番30号	14,100		14,100	0.06
新栄運輸株式会社	横浜市鶴見区平安町 1丁目46番1号	9,800		9,800	0.04
丸新港運株式会社	大阪市港区港晴 2丁目13番35号	8,800		8,800	0.04
日栄運輸株式会社	神戸市灘区摩耶埠頭 摩耶業務センタービル	4,000		4,000	0.01
計		529,800		529,800	2.61

(注) 従業員持株会信託が所有する当社株式409,800株は、上記自己株式には含まれておりません。

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

従業員株式所有制度の内容

当社は、当社グループ社員に対して業績向上へのインセンティブを付与し、経営への参画意識を高めることにより、当社の企業価値の向上を図るべく、「従業員持株会信託型ESOP」（以下「本制度」）を導入しております。

本制度は、「日新社員持株会」（以下「従業員持株会」）に加入する全ての社員を対象とするインセンティブ・プランです。

本制度では、当社が従業員持株会に加入する社員のうち一定の要件を充足する者を受益者とする信託（以下「従持信託」）を設定し、従持信託は今後一定期間にわたり従業員持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を一括して取得します。その後、従持信託は従業員持株会に対して当該株式を売却していきます。従業員持株会に対する当社株式の売却を通じて従持信託に売却益相当額が累積した場合には、これを受益者要件を充足する社員に対して分配します。

なお、当社は、従持信託が当社株式を取得するための借入に対して当社が補償を行うため、当社株価の下落等により、従持信託が借入債務を完済できなかった場合においても、当社が銀行に対して残存債務を弁済することから、社員の追加負担はありません。

a. 本制度について

委託者	当社
受託者	三井住友信託銀行株式会社 （再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行）
受益者	当社社員持株会の会員のうち受益者要件を充足する者
信託契約日	2020年11月25日
信託の期間	2020年11月25日～2025年11月末日（予定）
信託の目的	持株会に対する安定的かつ継続的な株式の供給及び受益者確定手続きを経て確定される受益者への信託財産の交付

b. 信託における当社株式の取得内容

取得株式の種類	普通株式
取得価額の総額	849百万円
株式取得期間	2020年11月25日～2020年12月2日
株式の取得方法	自己株式の処分及び取引所市場における取引（立会外取引を含む）により取得

従業員持株会に取得させる予定の株式の総数

614,400株

従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受け取ることができる者の範囲

信託契約において「受益者確定基準日」として定める日時点において、従業員持株会加入者の地位を喪失していない者（ただし、定年退職、転籍ならびに役員への昇格等による退会は、本条による従業員持株会加入者の地位の喪失に含まないものとする。）

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	556	851
当期間における取得自己株式	22	33

(注) 当期間における取得自己株式には、2022年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式(注)1	18,316	27,492		
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(買増請求者へ売渡し)				
保有自己株式数(注)2	446,378		446,400	

(注)1. 当事業年度の内訳は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分によるもの(株式数18,316株、処分価額の総額27,492,316円)であります。

なお、当期間における処理自己株式には、2022年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売却による株式数の減少は含めておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、2022年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増しによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、将来の経営環境の変化や事業展開などを見据え、業績、財務状況、配当性向の水準などを総合的に勘案し、安定的配当の継続を基本に、株主に対する利益還元の充実に努めてまいります。

内部留保資金につきましては、安定的経営基盤の確立に向け、中長期的見地に立ったグローバルな事業展開をはじめ、物流施設やIT関連の整備・拡充及び財務体質の強化のために活用してまいります。

なお、当社は2006年6月29日開催の定時株主総会において、取締役会決議により剰余金の配当等を行う旨の定款変更を決議しております。

上記方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき普通配当32円の配当といたしました。これにより、中間配当28円を合わせた当期の年間配当金は1株当たり60円となります。なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する取締役会決議による剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2021年11月8日	541	28.00
2022年5月23日	621	32.00

配当金の総額には、従業員持株会信託に対する配当金(2021年11月8日決議分13百万円、2022年5月23日決議分13百万円)を含めておりません。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

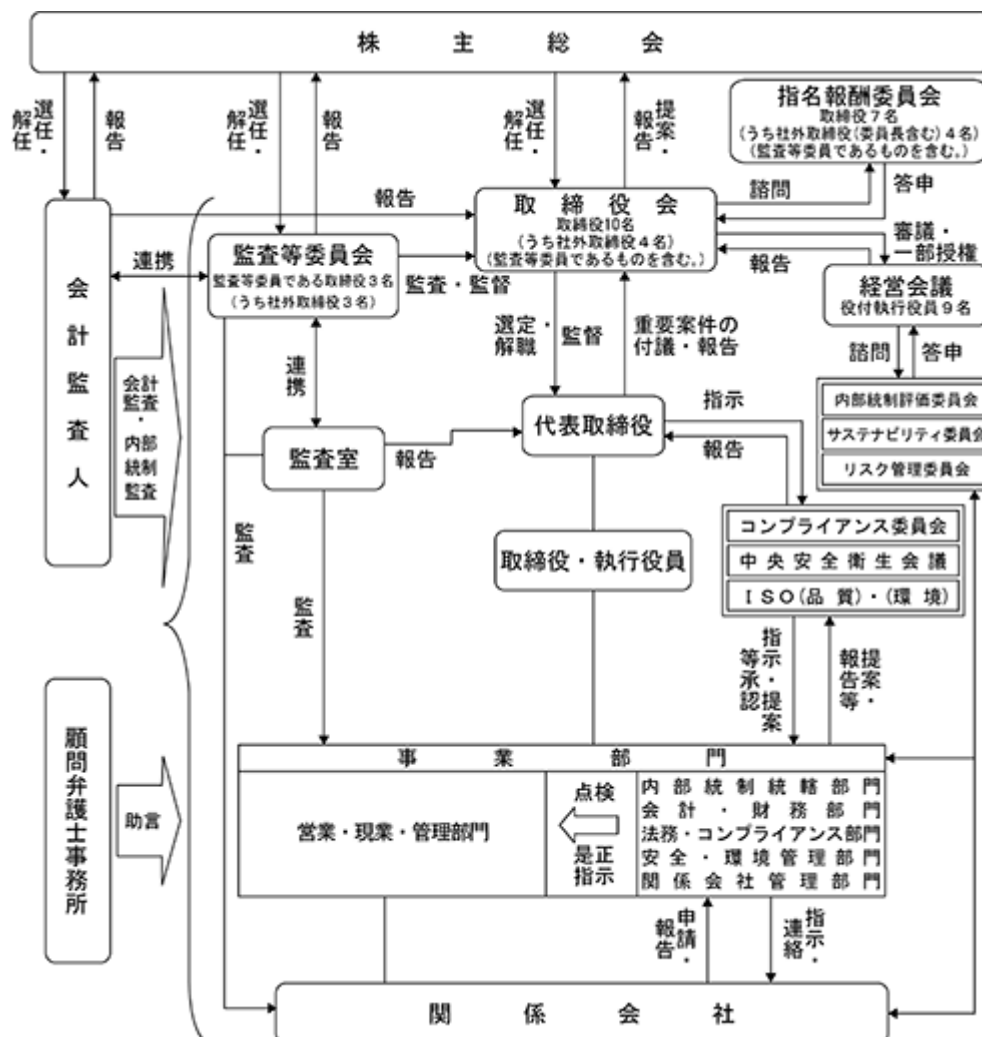
当社は、企業価値の向上を通して、社会への貢献とステークホルダーの期待に応えていくために、経営の透明性と経営効率の向上を基本としたコーポレート・ガバナンスの徹底を図っております。また、コーポレート・ガバナンスを有効に機能させる仕組みとして、国内外の法令遵守はもとより、企業倫理に則って行動するための具体的な指針として「日新企業行動憲章」を制定し、この行動憲章に掲げたコンプライアンス活動を推進しております。

企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社は、取締役会の監督機能強化によるコーポレート・ガバナンスの一層の充実の観点から、自ら業務執行を行わない社外取締役の機能を活用することで、中長期的な企業価値の向上を図るべく、監査等委員会設置会社を選択しております。

企業統治の体制を表す模式図は次のとおりです。



取締役及び取締役会

取締役は、有価証券報告書提出日現在、取締役（監査等委員を除く）7名、監査等委員3名であります。取締役会は、毎月1回定期的に開催するほか、必要に応じ臨時取締役会を随時開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行状況を監督しております。

監査等委員及び監査等委員会

当社の監査等委員会は、藤根剛氏を監査等委員長とし、藤根剛氏、増田文彦氏、小粥純子氏の3名で構成されております。各氏は社外取締役であり、取締役会、経営会議等の重要な会議への出席や稟議書の閲覧等を通じ、取締役及び使用人から事業に係る報告を受け、意思決定や業務執行の監査・監督を行っております。

監査等委員会の監査の実効性を高め、情報収集その他内部監査部門との連携強化を目的に、藤根剛氏を常勤の監査等委員として選定しております。

指名報酬委員会

当社の指名報酬委員会は、社内取締役3名と社外取締役4名で構成し、取締役会の諮問に応じて、取締役（監査等委員であるものを除く）の選任・解任、執行役員の昇任・降任、社外取締役の独立性基準、取締役（監査等委員であるものを除く）の報酬等に関する事項について審議し、取締役会に対して答申を行うものとしております。

経営会議

経営会議は、代表権のある取締役と役付執行役員をもって構成し、毎週1回開催しており、重要案件に関する事前審議と取締役会の決議を要しない重要事項について決議をしております。

コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は、社長を委員長とし全社的な法令遵守を推進し、違反を未然に防止するために、適宜開催しております。

内部統制評価委員会

内部統制評価委員会は、社長を委員長とし、代表権のある取締役と役付執行役員で構成し、2021年度は6回開催し、内部統制報告制度に関わる重要事項について審議を行いました。なお、内部統制評価委員会は内部統制の不備が発見された場合は、これらの是正措置及び内部統制に関わるその他の重要な事項について、取締役会に報告する体制をとっております。

サステナビリティ委員会

サステナビリティ委員会は、社長を委員長とし、委員長が指名する委員で構成し、経営会議の諮問機関としてサステナビリティの重要課題に対して、課題解決に向けた目標の設定、進捗管理を行い、経営会議に答申を行うものとしております。

ロ 内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備の状況

当社は、役職員の適正な職務執行及び会社業務の適正を確保するため、内部統制システムの整備に関する基本方針を次のとおり制定しております。

取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役及び使用人は、公正な企業活動を推進するために、その基本方針や具体的推進策を定めた企業行動憲章及びコンプライアンス関連諸規則を遵守するとともに、研修や社内掲示などを通じて、コンプライアンスに関する啓発・教育を行う。

また、社長を委員長とするコンプライアンス委員会により、コンプライアンス活動の実践に努めるとともに、内部通報制度を整備し不正行為等の早期発見と是正に努め、コンプライアンス経営をより一層強化する。

企業行動憲章では、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体には、断固たる行動をとる旨定め、一切の関係を遮断することを「コンプライアンス・マニュアル」により役職員に周知する。また、これらの勢力及び団体に対しては、弁護士、警察等とも連携し毅然と対応する。

監査室は内部監査基本計画に基づき、コンプライアンスや職務執行状況の監査を実施し、内部監査の結果を社長及び取締役会並びに監査等委員会に報告する。

また、財務報告の信頼性を確保するために内部統制評価委員会を設置し、財務報告に係る内部統制の整備及び運用の有効性を評価し状況を把握する。

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に関する重要事項については、稟議規程及び取締役会規程等の関連規程に基づき稟議書、議事録等を作成し、文書取扱規程により適正な保存及び管理を行うものとする。

損失の危険の管理に関する規程その他の体制

コンプライアンスに係るリスク、信用・法務リスク、オペレーショナル・リスクや環境及び品質に係るリスクなどの経営に重大な影響を及ぼすリスクを全社的観点より洗い出し適切な対応を図るため、リスクマネジメント規則に基づきリスク管理委員会を設置し、リスク管理体制の構築及び運用を行う。

自然災害等の緊急事態に対しては、安全確保と顧客貨物の保全、及び会社財産の損害を最小限に抑え事業活動を早期に復旧させることを目的として、危機管理規程に基づき対応する。

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

業務を組織的かつ効率的に運営することを目的とし、役職員の職務分掌及び責任権限規程を定める。また、組織及び組織単位の業務分掌を定める規程により、経営組織及び組織単位を明確にするとともに、各組織の所管や担当業務の分掌を定める。

取締役の職務執行の効率性を向上させるため、決裁権限規程に基づき、稟議書等により所定の承認を行うほか、重要事項については経営会議で審議したうえで取締役会に諮る。

取締役会を原則月1回開催し、取締役会規程に定められた付議基準に基づき、重要な業務執行を決定する。取締役会において中期経営計画及び各年度予算を決議し、各部門が管轄する具体的な施策及び効率的な業務執行体制を決定するとともに、目標達成に向けた進捗管理を行い、その状況は各部門より、定期的に取り締り報告させることとしている。

内部統制の強化と業務品質向上のため、業務を指導する専任部署を設置し、グループ会社も含め、改善に取り組む支援体制を構築する。

当社及び当社の子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

イ) 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

当社は、子会社に業務執行、財務状況その他重要な情報について関係会社管理規程及び日新グループ会計方針に基づき、当社への事前協議や報告を義務づけている。

ロ) 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、子会社のリスクについて年度毎にリスク報告書の提出を求め、リスクマネジメント規則に基づきリスク管理体制を構築しリスクの管理を行うとともに、関係会社管理規程に基づく協議・報告や「コンプライアンス・マニュアル」により情報の共有化を図る。また、緊急事態発生時の子会社との連携・対処について危機管理規程により定める。

ハ) 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、子会社の効率的な業務執行のため関係会社管理規程にて責任権限を定めるとともに、年度予算等承認された事業計画の執行状況を定期的に取り締り報告する。

ニ) 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、子会社に企業行動憲章の周知や「コンプライアンス・マニュアル」の整備を求め啓蒙を図る。また、子会社内部監査を実施し、結果を子会社に通知するとともに概要を定期的に取り締り報告する。

監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項

内部監査部門として監査室を置き、当室の所属員は監査等委員会の職務の補助を兼務する。

の使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査室所属の使用人の任命、異動等の取扱いについては監査等委員会と事前に協議のうえ決定する。

の使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査室所属の使用人の職務は、組織及び組織単位の業務分掌を定める規程に定め、監査等委員会の指示に従う体制を確保する。

監査等委員会への報告に関する体制

イ) 取締役及び使用人が監査等委員会に報告をするための体制

取締役及び使用人は、監査等委員会より事業に係る報告を求められた場合はすみやかに報告を行うものとする。また、当社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実が発見された場合は、直ちに監査等委員会に報告を行うものとする。

社内及び社外に設置しているヘルプデスクなどへの法令違反行為等に係る通報または相談に関し、重要なものは監査等委員会に報告する。監査室は内部監査についての情報を定期的に監査等委員会に報告する。

ロ) 子会社の取締役、監査役及び使用人またはこれらの者から報告を受けた者が当社の監査等委員会に報告をするための体制

社内及び社外に設置している関係会社ヘルプデスクなどへの法令違反行為等に係る通報または相談に関し、重要なものは監査等委員会に報告する。監査室は子会社内部監査についての結果を監査等委員会に報告する。

の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

子会社を含め使用人がヘルプデスクへの通報または相談を理由に不利益な取扱いを受けない旨を内部通報取扱規則等に規定している。

監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または償還の処理に係る方針に関する事項

監査等委員の職務の執行に係る費用等について、当該費用が監査等委員の職務の執行に必要でないと認められる場合を除き、その費用は会社が負担するものとする。

監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

当社は、監査等委員会が会計監査人より定期的に監査の状況報告を受けるとともに、監査室と緊密な連携を保ち内部監査についての情報を活用した監査が実効的に行われる体制を確保する。

八 責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第423条第1項の責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、会社法第425条第1項各号に掲げる額の合計額となります。

二 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3に基づき、以下の内容を概要とする役員等賠償責任保険契約を締結しております。

被保険者の範囲

当社の取締役（退任した元役員を含む）、執行役員、管理職従業員（ ）

会社の取締役会決議により会社法上の「重要な使用人」として選任された執行役員以外の者（当社の場合、部（店・室）長の者）

被保険者の実質的な保険料負担割合

保険料は全額会社負担としており、被保険者の保険料負担はありません。

填補の対象となる保険事故の概要

被保険者の業務の遂行に起因して損害賠償請求がなされたことによって被る損害（法律上の損害賠償金及び争訟費用）について補填されます。

役員等の職務の適正性が損なわれなかったための措置

被保険者の故意、違法な私的利益供与、犯罪行為等による賠償責任に対しては填補の対象とされない旨の免責条項が付されております。また、本保険契約は役員等の職務執行の適正のため免責金額が設定されているため、損害額のうち当該免責金額分については填補されません。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ 剰余金の配当等

当社は、剰余金の配当等の決議について、機動的な決定を可能とするため、剰余金の配当等会社法第459条第1項に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定めることとする旨、定款で定めております。

ロ 自己株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、取締役会の決議によって当社の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

ハ 取締役等の責任免除

当社は職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めております。

取締役の定数

2021年6月23日付当社定款一部変更により、当社の監査等委員以外の取締役の定数は10名以内、監査等委員である取締役の定数は4名以内と定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役選任の決議について、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役選任の決議は、累積投票によらない旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 9名 女性 1名 (役員のうち女性の比率 10%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役社長 社長執行役員	筒井 雅 洋	1953年2月25日生	1975年4月 大阪商船三井船舶株式会社入社 1986年7月 当社入社 1993年6月 当社取締役 2001年4月 当社常務取締役 2005年6月 当社専務取締役 2007年6月 当社代表取締役副社長 2008年6月 当社代表取締役社長 社長執行役員 業務執行責任者(COO) 2019年6月 横浜航空貨物ターミナル株式会社代表 取締役社長(非常勤)(現) 2020年6月 当社代表取締役社長 社長執行役員(現)	(注)2	54,651
代表取締役 専務執行役員 社長補佐、 営業本部長、 兼事業本部担当	渡 邊 淳一郎	1956年5月30日生	1981年4月 株式会社三和銀行入行 2009年11月 当社入社 2010年6月 当社執行役員 2012年6月 当社取締役執行役員 2012年10月 当社取締役常務執行役員 2016年4月 当社取締役専務執行役員 2020年4月 当社社長補佐、営業本部長、兼事業本 部担当(現) 2020年6月 当社代表取締役専務執行役員(現)	(注)2	9,964
取締役 専務執行役員 事業本部長	筒井 昌 隆	1967年10月10日生	1990年4月 当社入社 2011年4月 当社人事部長 2013年4月 当社執行役員 2014年6月 当社取締役執行役員 2016年4月 当社取締役常務執行役員 2020年4月 当社取締役専務執行役員(現) 2020年4月 当社事業本部長(現)	(注)2	42,919
取締役 常務執行役員 特命担当 (業務高度化、旅行事業)、 兼化学品営業第一部、 化学品営業第二部、 ビジネスソリューション営業部、 複合輸送営業部、 グローバルロジスティクス営業部、 食品物流営業部管掌	鳥 尾 省 治	1954年7月4日生	1978年4月 当社入社 2006年4月 香港日新社長 2009年4月 当社中国事業部長 2012年6月 当社執行役員 2015年4月 当社常務執行役員 2015年4月 当社関西支社長 2017年6月 当社取締役常務執行役員(現) 2022年4月 当社特命担当(業務高度化、旅行事 業)、兼化学品営業第一部、化学品営業 第二部、ビジネスソリューション営業 部、複合輸送営業部、グローバルロジ スティクス営業部、食品物流営業部管 掌(現)	(注)2	7,565
取締役 常務執行役員 管理本部長 (AEO統括室、 経営企画部、 業務管理室、 経理部、総務部、 法務コンプライアンス室、 人事部、安全環境管理部、 情報システム部担当)	栗 原 智	1961年6月10日生	1986年4月 当社入社 2013年4月 当社経営企画部長 2015年4月 当社人事部長 2016年4月 当社執行役員 2020年4月 当社常務執行役員 2022年4月 当社管理本部長(AEO統括室、経営 企画部、業務管理室、経理部、総務 部、法務コンプライアンス室、人事 部、安全環境管理部、情報システム部 担当)(現) 2022年6月 当社取締役常務執行役員(現)	(注)2	6,925

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役 常務執行役員 モビリティ営業、 航空事業部担当	桜井 哲男	1961年11月8日生	1985年4月 当社入社 2014年4月 当社総合営業第一部長 2017年4月 当社執行役員 2020年4月 当社常務執行役員 2022年4月 当社モビリティ営業部、航空事業部担当(現) 2022年6月 当社取締役常務執行役員(現)	(注)2	1,865
取締役	藤本 進	1948年12月5日生	1972年4月 大蔵省入省 1992年6月 アジア開発銀行理事 1998年6月 横浜税関長 2007年6月 MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社取締役 2008年4月 三井住友海上火災保険株式会社取締役常務執行役員 2014年4月 MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社取締役副社長執行役員 2014年4月 三井住友海上火災保険株式会社副社長執行役員 2016年4月 株式会社インターリスク総研取締役会長 2018年10月 当社顧問 2019年4月 株式会社東海東京調査センター取締役会長(現) 2019年6月 当社取締役(現)	(注)2	1,600
取締役 (監査等委員) (常勤)	藤根 剛	1955年6月11日生	1978年4月 株式会社横浜銀行入行 2004年12月 同行コンプライアンス統括部長 2005年6月 同行監査部長 2010年3月 株式会社さいか屋取締役常務執行役員 2013年6月 当社常勤監査役 2014年5月 日新航空サービス株式会社監査役(現) 2015年5月 日中平和観光株式会社監査役(現) 2015年6月 当社取締役(監査等委員)(常勤)(現)	(注)3	3,600
取締役 (監査等委員)	増田 文彦	1951年12月20日生	1974年4月 横浜市役所入庁 2003年4月 同市港湾局港湾経営部長 2004年4月 同市港湾局国際競争力強化担当政策専任部長 2009年4月 同市経済局市場担当理事 2012年6月 神奈川臨海鉄道株式会社横浜支社長 2016年6月 同社専務取締役営業推進部長 2017年6月 当社取締役(監査等委員)(現) 2017年7月 神奈川臨海通運株式会社取締役相談役	(注)3	2,000

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (監査等委員)	小 粥 純 子	1967年10月10日生	1991年4月 中央新光監査法人入所 1994年3月 公認会計士登録 2006年9月 あらた監査法人(現PwCあらた有限責任監査法人)入所 2012年8月 日本公認会計士協会 自主規制・事業本部 調査・相談グループ長 2012年10月 東北大学大学院経済学研究科(会計大学院)教授(現) 2020年1月 小粥純子公認会計士事務所開設(現) 2020年3月 税理士登録 2020年4月 竹内絢子税理士事務所入所(現) 2020年12月 日本調理機株式会社取締役監査等委員(社外取締役)(現) 2021年6月 当社取締役(監査等委員)(現) 2021年12月 大和ハウスリート投資法人監督役員(現) 2022年3月 株式会社セレス取締役監査等委員(社外取締役)(現) 2022年6月 株式会社商工組合中央金庫監査役(社外監査役)(現) 2022年6月 株式会社民間資金等活用事業推進機構監査役(社外監査役)(現)	(注)3	-
計					131,089

- (注) 1. 取締役藤本 進氏、監査等委員である取締役(以下、「監査等委員」)藤根 剛氏、増田 文彦氏及び小粥純子氏は、社外取締役であります。
2. 取締役(監査等委員を除く)の任期は、2022年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
3. 監査等委員の任期は、2021年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。
委員長 藤根 剛氏、委員 増田 文彦氏、委員 小粥 純子氏
5. 所有株式数は、2022年3月31日現在の株式数を記載しております。

社外取締役の状況

当社の社外取締役は4名で、藤根剛氏、増田文彦氏、及び小粥純子氏は監査等委員であります。

藤本進氏は、2016年6月まで、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社の取締役を務めておりました。MS&ADインシュアランスグループと当社との間には、海上保険等の取引がありますが、その金額は軽微であります。その他の特記すべき関係はありません。

藤根剛氏は、株式会社横浜銀行の出身であります。同行は当社の主要取引銀行かつ出資比率4.93%の株主であり、当社と同行との間に金銭借入等の取引があります。その他の特記すべき関係はありません。

増田文彦氏が専務取締役を務めていた神奈川臨海鉄道株式会社と当社との間には、取引が存在しますが、その金額は軽微であり、特別な利害関係はありません。また、同氏が取締役相談役を務めていた神奈川臨海通運株式会社と当社との間には、取引が存在しますが、その金額は軽微であり、特別な利害関係はありません。

小粥純子氏は、中央新光監査法人及びあらた監査法人（現PwCあらた有限責任監査法人）に在籍した経歴がありますが、当社と両監査法人との間には取引はなく、特別な利害関係はございません。

なお、当社は、社外取締役を選任するための独立性に関する判断基準を定めており、その内容は以下の通りであります。

当社は、以下の事項に該当しない社外取締役を独立性があると判断する。

- 1) 現在及び直近の過去1年間において、次に該当する者でないこと
 - (1) 当社の主要な取引先（注1）の業務執行者（注2）
 - (2) 当社の主要な借入先（注3）の業務執行者
 - (3) 当社から役員報酬以外に多額の報酬を得ている法律専門家、公認会計士またはコンサルタント（注4）
（当該報酬を得ている者が法人、組合その他の団体である場合は、当該団体に所属する法律専門家、公認会計士またはコンサルタント）
 - (4) 当社の会計監査人または会計監査人である監査法人に所属する公認会計士
 - (5) 当社から多額の寄付を得ている者（注5）（当該寄付を得ている者が法人、組合その他の団体である場合は、当該団体の業務を運営する者）
 - (6) 当社の主要株主（注6）またはその業務執行者
- 2) 社外取締役の二親等以内の親族が、現在及び直近の過去1年間において、次に該当する者でないこと
 - (1) 当社及び当社の連結子会社の業務執行者
 - (2) 上記1)の(1)～(6)に該当する者

（注1）直近の事業年度における取引額が、当社連結売上高の2%を超える取引先とする。

（注2）業務執行取締役、執行役、執行役員、支配人その他の使用人等をいう。

（注3）直近の事業年度末日における当社の借入額が、当社連結総資産の2%を超える借入先とする。

（注4）直近の事業年度における当社からの報酬の合計額が、1,000万円を超える者とする。

（注5）直近の事業年度における当社からの寄付金の合計額が、1,000万円を超える寄付先とする。

（注6）当社の議決権総数の10%以上の議決権を有する者とする。

また、社外取締役である藤根剛氏は中小企業診断士の資格を有しており、財務に関する相当程度の知見を有するものであります。

社外取締役である小粥純子氏は公認会計士および税理士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会監査の状況

a. 監査等委員会監査の組織、人員

当社の監査等委員会は、取締役監査等委員3名（常勤1名、非常勤2名）で構成されており、全員が社外取締役であり、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。また、常勤の藤根剛監査等委員は中小企業診断士の資格を有し、財務に関する相当程度の知見を有しており、非常勤の小粥純子監査等委員は公認会計士・税理士の資格を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

なお、当事業年度において監査等委員会を10回開催しており、各監査等委員の出席状況は以下のとおりであります。

地位・氏名	開催回数	出席回数
取締役監査等委員（常勤） 藤根 剛	10	10
取締役監査等委員 増田 文彦	10	10
取締役監査等委員 小粥 純子	6	6

(注)小粥純子監査等委員は2021年6月23日開催の定時株主総会において選任され就任しております。

b. 監査等委員会監査の手続

監査等委員会は、監査の方針、監査計画、職務の分担等に従い、監査等委員による取締役会及び重要な会議への出席、重要な決裁書類の閲覧、主要な事業所及び子会社への往査等を通じた調査を行うほか、内部監査部門等と連携し、取締役の職務の執行状況、財務報告に係る内部統制を含む内部統制システムの整備・運用状況等の監査を行っております。また、会計監査人の監査品質及び独立性を監視・検証するため、会計監査人と定期的に情報交換を行うとともに、四半期決算及び年度決算に係る会計監査を行っております。

更に、監査等委員会による監督活動として、監査等委員全員が指名報酬委員会に委員として出席しており、監査等委員でない取締役の選任及び報酬に係る監査等委員会としての意見を決定しております。

内部監査の状況

当社の内部監査は他の部門から独立した監査室（10名）が監査計画に基づき、当社及び当社グループの内部監査を実施しております。

監査結果は、取締役会及び監査等委員会に報告され、コンプライアンスの徹底や業務の改善に反映されております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

b. 継続監査期間

41年

上記は、調査が著しく困難であったため、現任の監査人である有限責任 あずさ監査法人の前身の1つである監査法人 横浜関内監査事務所が監査法人組織になって以降の期間について記載したものです。

実際の継続監査期間は、この期間を超える可能性があります。

c. 業務を執行した公認会計士

山本 哲也

康 恩実

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、会計士試験合格者等3名、その他10名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査等委員会は、会計監査人に対する評価基準に基づく評価、業務執行部門からの意見、監査報酬の妥当性等を総合的に勘案した結果、有限責任 あずさ監査法人の再任を決定しております。

監査等委員会は、会社法第340条第1項各号のいずれかに該当する事由が認められる場合には、監査等委員全員の同意により会計監査人を解任いたします。また、監査等委員会は、会計監査人の独立性、職務遂行状況等を総合的に勘案し、必要と認められる場合には、会計監査人の解任または不再任に関する株主総会議案の内容を決定いたします。

f. 監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、会計監査人について、品質管理体制や独立性・専門性の観点から評価基準を策定しており、その評価に基づき協議を行った結果、会計監査人である有限責任 あずさ監査法人の適格性、独立性及び職務の遂行状況に重要な問題がないことを確認しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	57		60	
連結子会社		7		
計	57	7	60	

(前連結会計年度)

連結子会社における非監査業務の内容は、親会社の会計監査人からの指示書に基づく業務等です。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク (KPMG) に対する報酬

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社				
連結子会社	6	6	7	6
計	6	6	7	6

(前連結会計年度)

連結子会社における非監査業務の内容は、税務コンサルティング業務等です。

(当連結会計年度)

連結子会社における非監査業務の内容は、税務コンサルティング業務等です。

c. 監査報酬の決定方針

該当事項はありません。

d. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、会計監査人の報酬等について、会計監査人の監査計画の内容、職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等を確認し、必要な検証を行った結果、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、社外取締役が過半数を占め、かつ社外取締役が委員長である任意の指名報酬委員会を設置しております。当社の役員報酬の決定に関する方針につきましては、指名報酬委員会の審議、答申を踏まえ、取締役会の決議により定めております。

1) 基本方針

当社の取締役（社外取締役及び監査等委員であるものを除く。）の報酬は、固定報酬としての基本報酬と、業績向上への貢献意欲を高めるための変動報酬としての賞与及び譲渡制限付株式報酬で構成されております。

これらの報酬の比率は、目指す水準として、凡そ基本報酬7：変動報酬としての賞与2：株式報酬1とすることとしております。

社外取締役の報酬は、その役割と独立性の観点から、基本報酬のみとしております。

監査等委員である取締役（以下「監査等委員」という。）の報酬は、監査業務や業務執行の監督等の職務の適正性を確保する観点から、基本報酬のみとしております。

2) 報酬の決定

2015年6月24日開催の第106期定時株主総会の決議により、取締役（監査等委員であるものを除く。）の報酬総額は年額360百万円以内、監査等委員の報酬総額は年額50百万円以内と定められております。

上記報酬限度額とは別枠として、2021年6月23日開催の第112期定時株主総会の決議により、取締役（社外取締役及び監査等委員であるものを除く。）に対して譲渡制限付株式の付与のために支給する金銭報酬債権の総額は年額50百万円以内、付与する普通株式の総数は年50千株以内と定められております。

a. 基本報酬

取締役（監査等委員であるものを除く。）の基本報酬については、月例の固定報酬とし、株主総会で決議された報酬総額の範囲内で、各取締役の役位、外部調査機関の経営者報酬調査データ等を参考に作成された原案を、指名報酬委員会で審議した後、取締役会へ答申し、取締役会はその答申を尊重の上、決定しております。

監査等委員の基本報酬については、株主総会において決議された報酬総額の範囲内で、各監査等委員の役割・職務の内容等を勘案し、監査等委員の協議により定めております。

b. 賞与

賞与については、事業年度毎の会社業績向上に対する意識を高めるため、業績連動報酬として取締役（社外取締役及び監査等委員であるものを除く。）に対し賞与を支給しております。

賞与額算定の基礎として選定した業績指標の内容は、当社連結業績における営業利益等から算出したEBITDAとしております。業績指標としてEBITDAを選定した理由は、会計基準や設備投資の多寡等に左右されず、当社事業そのものの利益及びキャッシュフローの水準を判断することができるためです。賞与支給額の算定方法は、過去の業績実績に基づくEBITDAを基準とし、その基準値に対する、前事業年度におけるEBITDAの達成比率に応じて算定された額を賞与として、毎年一定の時期に支給することとしております。算定された賞与総額及び各個人別の報酬額について指名報酬委員会で審議した後、取締役会へ答申し、取締役会はその答申を尊重の上、決定しております。

c. 譲渡制限付株式報酬

非金銭報酬等は株式報酬とし、当社の持続的な成長を図るための中長期的なインセンティブを付与するとともに、株主との一層の価値共有を進めることを目的として、株式報酬制度を導入しており、毎年1回、取締役会決議を経て、対象者に対し普通株式を用いた譲渡制限付株式の割当てを行います。

当該株式報酬の内容は、普通株式を用いた譲渡制限付株式の交付とし、譲渡制限解除は役員退任時を原則とします。

3) 取締役（監査等委員であるものを除く。）の個人別の報酬等の内容についての決定

取締役（監査等委員であるものを除く。）の個人別の報酬額については取締役会決議に基づき代表取締役社長がその具体的内容について委任を受けるものとし、その権限の内容は、各取締役の基本報酬の額及び各取締役の賞与の配分としております。

取締役会は、当該権限が代表取締役社長によって適切に行使されるよう、指名報酬委員会に原案の諮問、答申を得るものとし、代表取締役社長は、当該答申を尊重の上、決定しなければならないこととしております。

4) 当事業年度に係る取締役（監査等委員であるものを除く。）の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

取締役（監査等委員であるものを除く。）の個人別の報酬等の内容の決定に当たっては、指名報酬委員会が原案について決定方針との整合性を含めた多角的な検討を行っているため、取締役会もその答申を尊重し決定方針に沿うものであると判断しております。

5) 取締役（監査等委員であるものを除く。）の個人別の報酬等の決定に係る委任に関する事項

当社においては、取締役会の委任決議に基づき代表取締役社長社長執行役員筒井雅洋が取締役（監査等委員であるものを除く。）の個人別の報酬額の具体的内容を決定しております。その権限内容は、各取締役の基本報酬の額及び各取締役の賞与の配分であります。

これらの権限を委任した理由は、当該権限が代表取締役社長によって適切に行使されるよう、取締役会は指名報酬委員会へ原案を諮問し答申を得るものとし、代表取締役社長は、当該答申を尊重の上、決定しなければならないこと等の措置を講じているからであります。

6) 取締役会及び指名報酬委員会の活動内容

当事業年度における当社の役員の報酬等の額の決定過程における取締役会及び指名報酬委員会の活動は以下のとおりです。

< 取締役会の活動内容 >

当事業年度においては、役員の報酬等の額について6回開催し、主に以下の内容を決議しました。

- ・ 取締役基本報酬及び取締役賞与
- ・ 取締役（監査等委員であるものを除く。）の報酬に関する基本方針
- ・ 譲渡制限付株式報酬制度導入
- ・ 譲渡制限付株式に係る金銭債権の支給

< 指名報酬委員会の活動内容 >

当事業年度においては、指名報酬委員会は3回開催し、主に以下の内容を審議しました。

- ・ 譲渡制限付株式報酬制度導入後の個人別の報酬等の内容に係る決定方針
- ・ 取締役（監査等委員であるものを除く。）の個々の基本報酬、賞与の額
- ・ 取締役（社外取締役および監査等委員であるものを除く。）の個々の株式報酬の付与割合

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動 報酬	譲渡制限付 株式報酬	左記のうち、 非金銭報酬等	
取締役（監査等委員を除く） （社外取締役を除く）	228	146	68	13	13	7
取締役（監査等委員） （社外取締役を除く）						
社外役員	42	42				5

（注）1．譲渡制限付株式報酬には、当事業年度における費用計上額を記載しております。

2．取締役（監査等委員及び社外取締役を除く）に対する非金銭報酬等の総額の内訳は、譲渡制限付株式報酬13百万円であります。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、専ら株式価値の変動または配当によって利益を受けることを目的とする株式を純投資目的の株式として、それ以外の目的で保有する株式を純投資目的以外の目的で所有する投資株式としています。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、グループ事業における取引先との関係維持・強化、取引拡大等の目的で政策保有株式を保有しておりますが、合理的意義がある場合を除き、新たな政策保有株式の取得は行わない方針としております。

個別銘柄の保有の適否に関しては、毎年、取締役会において、保有先企業との取引状況や定性的評価、保有目的、便益等を精査し、資本コスト等を踏まえた上で保有の適否の検証を行っております。その結果、保有の合理性が認められない株式については、適宜縮減を進めることとしております。

2021年度につきましては、6銘柄の株式についての売却を実施いたしました。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	58	913
非上場株式以外の株式	55	12,336

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	1	99	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から増加した。
非上場株式以外の株式	10	67	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点および取引先持株会に加入している会社について増加した。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式		
非上場株式以外の株式	6	525

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	2,580,410.00	2,580,410.00	財務面での長期的な取引関係を維持・強化するために保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無 (注)
	1,961	1,526		
株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ	3,939,740.00	3,939,740.00	財務面での長期的な取引関係を維持・強化するために保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無 (注)
	1,804	1,768		
本田技研工業株式会社	476,000.00	466,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。事業関係のより一層の強化が当社の企業価値向上に資すると判断し、10,000株を追加取得しております。	有
	1,659	1,546		
日新商事株式会社	990,000.00	990,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	有
	874	934		
三菱商事株式会社	133,338.00	133,338.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	613	417		
SOMPOホールディングス株式会社	76,781.00	76,781.00	保険取引を通じて長期的な取引関係を維持するために保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無 (注)
	413	325		
海豊国際控股有限公司	950,000.00	950,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	412	356		
株式会社オーハシテクニカ	288,575.44	284,026.41	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。株式数の増加は取引先持株会への拠出金での買増しです。	有
	373	446		
株式会社ヤクルト本社	55,966.54	55,451.56	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。株式数の増加は取引先持株会への拠出金での買増しです。	有
	364	310		
NSユナイテッド海運株式会社	80,000.00	80,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	336	150		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
丸紅株式会社	190,705.00	190,705.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	271	175		
第一生命ホールディングス株式会社	100,000.00	100,000.00	保険取引を通じて長期的な取引関係を維持するために保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無 (注)
	249	190		
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	63,100.00	63,100.00	財務面での長期的な取引関係を維持・強化するために保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無 (注)
	246	252		
株式会社ニッポン	140,313.43	139,795.51	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。株式数の増加は取引先持株会への拠出金での買増しです。	有
	233	231		
日本郵船株式会社	20,625.00	20,625.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	有
	221	77		
ENEOSホールディングス株式会社	481,979.72	453,138.89	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。株式数の増加は取引先持株会への拠出金での買増しです。	有
	220	227		
三井化学株式会社	64,296.00	64,296.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	198	224		
東京海上ホールディングス株式会社	25,200.00	25,200.00	保険取引を通じて長期的な取引関係を維持するために保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無 (注)
	179	132		
横浜冷凍株式会社	162,000.00	162,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	有
	138	147		
中国外運華東有限公司	3,561,000.00	3,561,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	136	146		
株式会社神戸物産	32,000.00	32,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	120	94		
株式会社クボタ	50,000.00	50,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	115	125		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
鹿島建設株式会 社	75,000.00	75,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	有
	111	117		
三井物産株式会 社	30,797.00	30,797.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	102	70		
ミネベアミツミ 株式会社	31,123.00	31,123.89	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	83	88		
デンカ株式会社	24,255.00	24,255.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	82	107		
東亜建設工業株 式会社	30,000.00	30,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	有
	74	73		
豊田通商株式会 社	14,293.00	14,293.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	72	66		
コスモエネル ギーホールディ ングス株式会社	23,200.00	23,200.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	61	61		
三井住友トラス ト・ホールディ ングス株式会社	14,602.00	14,602.00	財務面での長期的な取引関係を維持・強化す るために保有しております。定量的な保有効 果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を 精査し、保有の合理性について取締役会にお いて報告を行っております。	無 (注)
	58	56		
ダイニック株式 会社	71,000.00	71,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	有
	52	59		
株式会社池田泉 州ホールディ ングス	300,000.00	300,000.00	財務面での長期的な取引関係を維持・強化す るために保有しております。定量的な保有効 果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を 精査し、保有の合理性について取締役会にお いて報告を行っております。	無
	51	53		
伊藤忠商事株式 会社	12,302.00	12,302.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	50	44		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
岩崎通信機株式 会社	55,575.00	55,575.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	有
	48	50		
澁谷工業株式会 社	18,216.00	18,216.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	44	64		
双日株式会社	19,835.00	99,177.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。株式数 の減少は2021年10月1日に行われた株式併合 によるものです。	無
	40	30		
日本精工株式会 社	50,000.00	50,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	36	56		
シャープ株式会 社	23,144.00	23,144.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	有
	26	44		
株式会社T S I ホールディング ス	71,000.00	71,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	有
	23	22		
株式会社ホテル、ニューグ ランド	4,840.00	4,840.00	当社不動産事業における関係維持・強化、取 引拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	19	17		
ホクシン株式会 社	100,000.00	100,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	有
	18	12		
日本電気硝子株 式会社	6,592.59	5,955.82	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。株式数 の増加は取引先持株会への拠出金での買増し です。	無
	17	15		
阪和興業株式会 社	5,082.00	5,082.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	16	17		
サントリー食品 インターナショ ナル株式会社	3,000.00	3,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引 拡大等の観点から保有しております。定量的 な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本 効率等を精査し、保有の合理性について取締 役会において報告を行っております。	無
	13	12		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
株式会社G S I クレオス	12,000.00	6,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。株式数の増加は2021年4月1日に行われた株式分割によるものです。	無
	13	7		
D I C 株式会社	4,452.00	4,452.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	11	12		
日本出版貿易株式会社	6,741.97	6,227.15	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。株式数の増加は取引先持株会への拠出金での買増しです。	有
	9	8		
日本航空株式会社	4,000.00	4,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	有
	9	9		
日本精機株式会社	10,000.00		当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。事業関係のより一層の強化が当社の企業価値向上に資すると判断し、10,000株を取得しております。	無
	8			
株式会社トクヤマ	4,961.77	4,548.06	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。株式数の増加は取引先持株会への拠出金での買増しです。	無
	8	12		
兼松株式会社	6,200.00	6,200.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	8	9		
株式会社ワコールホールディングス	3,250.00	3,250.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	5	7		
三井金属鉱業株式会社	944.77	748.31	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。株式数の増加は取引先持株会への拠出金での買増しです。	無
	3	2		
雪印メグミルク株式会社	379.00	379.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	0	0		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
株式会社みずほ フィナンシャル グループ	228.00	228.00	財務面での取引関係を維持するために保有しております。当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大等の観点から保有しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無 (注)
	0	0		

(注) 当該会社は当社の株式を保有しておりませんが、当該会社のグループ会社が当社の株式を保有しております。

みなし保有株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
三菱商事株式会社	430,000.00	430,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大の観点から保有しており、退職給付信託に拠出しております。この議決権行使については、当社が指図権を留保しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無
	1,978	1,345		
本田技研工業株式会社	460,000.00	460,000.00	当社物流事業における関係維持・強化、取引拡大の観点から保有しており、退職給付信託に拠出しております。この議決権行使については、当社が指図権を留保しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	有
	1,604	1,526		
株式会社三菱UFJ フィナンシャル・グループ	731,720.00	731,720.00	財務面での長期的な取引関係を維持・強化するために保有しており、退職給付信託に拠出しております。この議決権行使については、当社が指図権を留保しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無 (注) 1
	556	432		
株式会社コンコ ルディア・フィ ナンシャルグ ループ	1,080,000.00	1,080,000.00	財務面での長期的な取引関係を維持・強化するために保有しており、退職給付信託に拠出しております。この議決権行使については、当社が指図権を留保しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無 (注) 1
	494	484		
株式会社三井住 友フィナンシ ャルグループ	16,800.00	16,800.00	財務面での長期的な取引関係を維持・強化するために保有しており、退職給付信託に拠出しております。この議決権行使については、当社が指図権を留保しております。定量的な保有効果の記載は困難ですが、便益や資本効率等を精査し、保有の合理性について取締役会において報告を行っております。	無 (注) 1
	65	67		

(注) 1 . 当該会社は当社の株式を保有しておりませんが、当該会社のグループ会社が当社の株式を保有しております。

2 . 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの
該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの
該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みとして、公益財団法人財務会計基準機構へ加入すると共に、同機構の主催するセミナーへ参加し、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,815	19,834
受取手形及び売掛金	29,837	3 35,021
原材料及び貯蔵品	106	138
その他	4,885	7,307
貸倒引当金	137	91
流動資産合計	53,506	62,209
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 67,004	2 72,378
減価償却累計額	43,338	46,049
建物及び構築物（純額）	23,666	26,329
機械装置及び運搬具	2 15,098	2 15,130
減価償却累計額	11,158	11,150
機械装置及び運搬具（純額）	3,939	3,979
土地	2 24,721	2 25,569
その他	5,763	3,598
減価償却累計額	2,760	2,860
その他（純額）	3,003	737
有形固定資産合計	55,331	56,616
無形固定資産		
借地権	504	500
その他	934	795
無形固定資産合計	1,438	1,296
投資その他の資産		
投資有価証券	1 16,662	1 18,088
長期貸付金	367	394
退職給付に係る資産	1,525	1,563
繰延税金資産	413	462
その他	3,838	4,407
貸倒引当金	109	140
投資その他の資産合計	22,697	24,776
固定資産合計	79,467	82,688
資産合計	132,973	144,898

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,501	14,973
1年内償還予定の社債	1,000	1,000
短期借入金	² 7,571	² 7,398
リース債務	2,377	2,208
未払法人税等	1,496	2,069
賞与引当金	2,076	2,578
役員賞与引当金	15	68
その他	6,785	³ 8,518
流動負債合計	33,824	38,815
固定負債		
社債	1,000	-
長期借入金	² 21,825	² 21,592
リース債務	3,107	3,201
長期未払金	115	58
繰延税金負債	1,380	1,769
退職給付に係る負債	4,316	3,252
その他	1,555	1,801
固定負債合計	33,301	31,676
負債合計	67,125	70,491
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,097	6,097
資本剰余金	4,736	4,707
利益剰余金	49,208	54,328
自己株式	1,512	1,284
株主資本合計	58,529	63,848
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,081	5,673
為替換算調整勘定	173	1,496
退職給付に係る調整累計額	108	576
その他の包括利益累計額合計	4,799	7,746
非支配株主持分	2,518	2,812
純資産合計	65,848	74,406
負債純資産合計	132,973	144,898

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)
売上高	155,915	192,699
売上原価	140,974	170,590
売上総利益	14,941	22,108
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	23	45
貸倒引当金繰入額	103	6
給料及び手当	6,451	6,314
賞与引当金繰入額	599	648
退職給付費用	475	402
役員賞与引当金繰入額	15	71
福利厚生費	1,169	1,101
旅費及び交通費	104	161
事務所費	1,349	1,648
修繕費	318	337
交際費	64	81
事業所税	11	8
租税公課	216	206
事業税	201	230
雑費	831	1,243
減価償却費	393	502
販売費及び一般管理費合計	12,330	13,009
営業利益	2,611	9,098
営業外収益		
受取利息	78	69
受取配当金	381	458
持分法による投資利益	173	511
助成金収入	1,254	240
その他	396	391
営業外収益合計	2,283	1,672
営業外費用		
支払利息	416	410
為替差損	4	205
その他	186	294
営業外費用合計	607	911
経常利益	4,287	9,859

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	180	436
補助金収入	5 56	5 90
固定資産売却益	2 415	2 66
特別利益合計	652	593
特別損失		
固定資産除却損	4 35	4 401
減損損失	7 242	7 292
特別退職金	6 253	6 291
投資有価証券評価損	120	73
固定資産売却損	3 1	3 13
特別損失合計	652	1,072
税金等調整前当期純利益	4,287	9,380
法人税、住民税及び事業税	1,858	3,011
法人税等調整額	337	197
法人税等合計	2,196	2,813
当期純利益	2,091	6,567
非支配株主に帰属する当期純利益	84	201
親会社株主に帰属する当期純利益	2,007	6,365

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
当期純利益	2,091	6,567
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,454	587
繰延ヘッジ損益	0	-
為替換算調整勘定	1,028	1,598
退職給付に係る調整額	1,295	684
持分法適用会社に対する持分相当額	118	181
その他の包括利益合計	4,896	3,052
包括利益	6,987	9,619
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	6,826	9,294
非支配株主に係る包括利益	161	325

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	6,097	4,711	48,298	1,063	58,043
会計方針の変更による累積的影響額					-
会計方針の変更を反映した当期首残高	6,097	4,711	48,298	1,063	58,043
当期変動額					
剰余金の配当			1,096		1,096
親会社株主に帰属する当期純利益			2,007		2,007
自己株式の取得				850	850
自己株式の処分		24		402	426
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	24	910	448	486
当期末残高	6,097	4,736	49,208	1,512	58,529

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2,621	0	1,237	1,404	19	2,413	60,437
会計方針の変更による累積的影響額							-
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,621	0	1,237	1,404	19	2,413	60,437
当期変動額							
剰余金の配当							1,096
親会社株主に帰属する当期純利益							2,007
自己株式の取得							850
自己株式の処分							426
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,460	0	1,063	1,295	4,819	104	4,923
当期変動額合計	2,460	0	1,063	1,295	4,819	104	5,410
当期末残高	5,081	-	173	108	4,799	2,518	65,848

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	6,097	4,736	49,208	1,512	58,529
会計方針の変更による累積的影響額			136		136
会計方針の変更を反映した当期首残高	6,097	4,736	49,072	1,512	58,393
当期変動額					
剰余金の配当			1,109		1,109
親会社株主に帰属する当期純利益			6,365		6,365
自己株式の取得				0	0
自己株式の処分		0		229	228
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		29			29
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	29	5,256	228	5,454
当期末残高	6,097	4,707	54,328	1,284	63,848

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	5,081	-	173	108	4,799	2,518	65,848
会計方針の変更による累積的影響額							136
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,081	-	173	108	4,799	2,518	65,711
当期変動額							
剰余金の配当							1,109
親会社株主に帰属する当期純利益							6,365
自己株式の取得							0
自己株式の処分							228
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							29
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	591		1,670	684	2,946	293	3,239
当期変動額合計	591	-	1,670	684	2,946	293	8,694
当期末残高	5,673	-	1,496	576	7,746	2,812	74,406

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,287	9,380
減価償却費	5,311	5,878
減損損失	242	292
特別退職金	253	291
助成金収入	1,254	240
補助金収入	56	90
固定資産売却損益（は益）	413	52
固定資産除却損	35	401
投資有価証券売却損益（は益）	180	436
投資有価証券評価損益（は益）	120	73
持分法による投資損益（は益）	173	511
貸倒引当金の増減額（は減少）	47	18
役員賞与引当金の増減額（は減少）	23	53
退職給付に係る資産の増減額（は増加）	107	184
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	234	66
受取利息及び受取配当金	459	528
支払利息	416	410
売上債権の増減額（は増加）	5,223	3,914
その他の流動資産の増減額（は増加）	736	2,458
仕入債務の増減額（は減少）	1,417	1,785
その他の流動負債の増減額（は減少）	268	1,139
その他	476	297
小計	5,000	11,633
利息及び配当金の受取額	577	656
利息の支払額	423	411
特別退職金の支払額	253	291
助成金の受取額	1,254	240
補助金の受取額	56	90
法人税等の支払額	1,256	2,379
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,955	9,540

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,442	1,050
定期預金の払戻による収入	506	1,780
有形固定資産の取得による支出	8,410	3,479
有形固定資産の売却による収入	541	87
無形固定資産の取得による支出	194	158
投資有価証券の取得による支出	32	173
投資有価証券の売却による収入	225	536
貸付けによる支出	3	5
貸付金の回収による収入	163	16
敷金及び保証金の差入による支出	582	819
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	439
その他	290	118
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,938	3,586
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	557	1,109
長期借入れによる収入	11,840	2,060
長期借入金の返済による支出	4,829	3,704
社債の償還による支出	-	1,000
リース債務の返済による支出	2,901	2,961
自己株式の取得による支出	850	0
自己株式の売却による収入	426	228
配当金の支払額	1,096	1,121
非支配株主への配当金の支払額	57	49
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,973	5,438
現金及び現金同等物に係る換算差額	484	703
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,524	1,219
現金及び現金同等物の期首残高	18,474	16,949
現金及び現金同等物の期末残高	16,949	18,168

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 56社

主要な連結子会社の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

(新規増加)

新栄運輸(株)、広栄運輸(株)

当連結会計年度において新たに株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

日日新国際物流有限公司

当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

「第1 企業の概況 3 事業の内容」に記載しているため省略しております。

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社はいずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社数 0社

(2) 持分法を適用した関連会社数 5社

主要な会社の名称

原田港湾(株)、丸新港運(株)、中外運 - 日新国際貨運有限公司

(3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社の名称等

日栄運輸(株)

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用会社は、それぞれ連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

(4) 持分法の適用の手続について特に記載する必要があると認められる事項

持分法の適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。当該決算日と連結決算日との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行うこととしております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、決算日が12月31日である上海高信国際物流有限公司を含む7社につきましては、連結決算日である3月31日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。その他の連結子会社につきましては、全て決算日が3月31日で、連結財務諸表提出会社と同一であります。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

a 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

b その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの...時価法によっております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

市場価格のない株式等 ...移動平均法による原価法によっております。

原材料及び貯蔵品

主として貯蔵品は、総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

デリバティブ

時価法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

a リース資産以外の有形固定資産

当社及び国内連結子会社は、主として定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)によっております。また、在外連結子会社は主として定額法によっております。なお、耐用年数については、主として法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

b リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

無形固定資産

a リース資産以外の無形固定資産

定額法によっております。なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

b リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売掛金、貸付金等債権の回収不能に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与支給に充当するため、支給見込額基準により計上しております。

役員賞与引当金

役員に対する賞与支給に充当するため、支給見込額に基づき、当連結会計年度に見合う額を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る資産及び負債の計上基準

退職給付に係る資産及び負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額を、発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額を費用処理することとしております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループの顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

物流事業

物流事業においては、海上貨物輸送業務、航空貨物輸送業務、自動車運送業務、港湾運送業務、倉庫業務、構内作業業務等のサービスを提供しております。これらのサービスについては、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点（貨物の引渡し時等）で収益を認識しております。

なお、一部の国際輸送に係る業務については当社グループの役割が代理人に該当すると判断されることから、他の当事者が提供するサービスと交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

旅行事業

旅行事業においては、業務渡航をはじめとした法人旅行業務、留学・修学旅行をはじめとした教育旅行業務、国内・海外の個人旅行をはじめとした観光旅行業務等のサービスを提供しております。これらのサービスのうち、手配旅行に係る業務は手配完了時点、企画旅行に係る業務については帰着日時点で収益を認識しております。

なお、手配旅行に係る業務については当社グループの役割が代理人に該当すると判断されることから、他の当事者が提供するサービスと交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

不動産事業

不動産事業においては、不動産賃貸業務、不動産仲介業務、清掃・定期点検などの建物管理業務等のサービスを提供しております。なお、不動産賃貸業務については「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）に基づく取引であり、顧客との契約から生じる収益以外の収益であります。これらのサービスについては、サービス完了時点で収益を認識しております。

取引の対価は、履行義務を充足してから1年以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。ただし、先物為替予約取引及び通貨スワップ取引については、振当処理の要件を満たす場合には、振当処理を採用し、特例処理の要件を満たす金利スワップ取引については、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)

デリバティブ取引(先物為替予約取引、通貨スワップ取引及び金利スワップ取引)

(ヘッジ対象)

外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引、借入金利息

ヘッジ方針

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、為替変動リスク及び金利変動リスクを回避する事を目的として、対象資産・負債の限度内でのデリバティブ取引を行っております。

ヘッジ有効性の評価方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。なお、振当処理及び特例処理を採用しているものについては、その要件を満たしていることをもってヘッジの有効性の判定に代えております。

その他のリスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの

通常の営業取引に係る為替相場変動リスク回避策の一手段として、実需及び将来発生が予定される営業取引の一部について、全体のポジション及び予想ポジションを把握した後、同一通貨建ポジション残高の範囲内において先物為替予約を実行しております。なお、先物為替予約取引、通貨スワップ及び金利スワップ取引は、取引の都度社内の承認手続きに則り承認を受け実行しております。その結果は取締役会に報告することになっております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

繰延資産の処理方法

社債発行費については、支出時に全額費用処理しております。

(重要な会計上の見積り)

(物流事業に属する有形固定資産の減損損失の認識の要否)

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
有形固定資産	28,910	31,058

当社グループにおける物流事業の中でも、倉庫事業、自動車運送事業、港湾運送事業などについては、サービスの品質向上のために、物流施設への設備投資を計画的に実施しております。近年、特に当社において、新倉庫建設や土地取得などによる物流施設の充実に努めており、金額的重要性が高まっております。

当社の保有する物流事業に属する有形固定資産(帳簿価額31,058百万円)のうち、一部の資産グループについては継続して営業損失が計上されていることなどから、減損の兆候があると判断しました。

減損の兆候があると認められた資産グループ(帳簿価額3,115百万円)について、減損損失の計上の要否について検討を行った結果、割引前将来キャッシュ・フローの総額が当該資産グループの固定資産の帳簿価額を超えると判断したため、減損損失は計上しておりません。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は、原則として、事業用資産については管理会計上の収益管理単位である営業部単位で、賃貸資産及び遊休資産については個別物件単位でグルーピングしています。

減損の兆候があると認められる資産又は資産グループについては、割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否を判定し、減損損失の認識が必要と判定された場合、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額は減損損失として計上されます。

減損損失の認識の要否の判定及び測定に用いられる将来キャッシュ・フローは、主要顧客からの受注見込みやコスト削減など一定の仮定を含む営業部店の将来計画を基礎として行い、また、資産グループの現在の使用状況や合理的な使用計画等を考慮し見積っております。

当該見積り及び仮定について、将来の不確実な経済条件の変動等により見直しが必要となった場合、翌連結会計年度の連結財務諸表において減損損失が発生する可能性があります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、物流事業における海上輸送サービス及び旅行事業における企画旅行の一部の収益については、収益認識の計上日を変更しております。また、一部の国際輸送サービス及び手配旅行等、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引について、従来は総額で収益を認識しておりましたが、純額で収益を認識する方法に変更しております。

この結果、従来 of 会計処理と比べて、当連結会計年度の売上高は19,038百万円減少し、売上原価は18,938百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ100百万円減少しております。また、受取手形及び売掛金は1,506百万円減少し、流動資産のその他は1,270百万円増加しております。さらに、利益剰余金の当期首残高は136百万円減少しております。

当連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書は、税金等調整前当期純利益は100百万円減少し、売上債権の増減額は597百万円増加し、その他の流動資産の増減額は910百万円減少し、仕入債務の増減額は413百万円増加しておりますが、営業活動によるキャッシュ・フローに与える影響はありません。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

収益認識会計基準第89 - 3項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る「収益認識関係」注記に関しては記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、連結財務諸表に与える影響はありません。

また、「注記事項(金融商品関係)」において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うこととしております。ただし、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日)第7 - 4項に定める経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前連結会計年度に係るものについては記載を省略しておりません。

(未適用の会計基準等)

(在外子会社)

会計基準等の名称	概要	適用予定日
「リース」 (米国会計基準 ASU 2016-02)	リース会計に関する会計処理を改訂	2023年3月期より適用予定

なお、当該会計基準等の適用による影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

当連結会計年度より、新たな基幹システムの導入を契機に、収支管理方法を見直しました。経営成績をより適切に表示するため、従来「販売費及び一般管理費」に含めていた、フォワーディング業務等における人件費・経費の一部を「売上原価」として計上しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結損益計算書の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「販売費及び一般管理費」に表示していた13,646百万円を「売上原価」に組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「定期預金の払戻による収入」及び「敷金及び保証金の差入による支出」は、金額的重要性が高まったため、当連結会計年度より区分掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示しておりました213百万円は、「定期預金の払戻による収入」506百万円、「敷金及び保証金の差入による支出」582百万円、「その他」290百万円として組み替えております。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、2020年8月6日開催の取締役会において、当社の中長期的な企業価値の向上を図ることを目的として、従業員インセンティブ・プラン「従業員持株会信託型ESOP」(以下「本制度」)の再導入を決議し、2020年11月9日開催の取締役会において、本制度の設定時期、金額等の詳細について決定しております。

本制度の導入に伴い、当社は2020年11月25日付で、第三者割当により、三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者:株式会社日本カストディ銀行(信託口))に対し、自己株式220千株を譲渡しております。

1. 取引の概要

当社が「日新社員持株会」(以下「当社持株会」)に加入する社員のうち一定の要件を充足する者を受益者とする従業員持株会信託(以下「従持信託」)を設定し、従持信託は今後5年間にわたり当社持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を、借入により調達した資金で予め取得しました。その後、従持信託は当社株式を毎月一定日に当社持株会に売却いたします。

当社持株会に対する当社株式の売却を通じて従持信託に売却益相当額が累積した場合には、これを受益者要件を充足する社員に対して分配します。

なお、従持信託が当社株式を取得するための借入に対して当社が補償を行うため、当社株価の下落等により、従持信託が借入債務を完済できなかった場合においても、当社が銀行に対して残存債務を弁済することから、社員の追加負担はありません。

2. 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度768百万円、555千株、当連結会計年度566百万円、409千株であります。

3. 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

前連結会計年度797百万円、当連結会計年度575百万円

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
投資有価証券(株式・出資金)	3,787 百万円	4,276 百万円

2 担保に供している資産並びに担保付債務は、次のとおりであります。

担保に供している資産

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
建物及び構築物	4,492 百万円	4,238 百万円
機械装置及び運搬具	112 "	106 "
土地	4,902 "	4,902 "
計	9,507 百万円	9,247 百万円

担保権によって担保されている債務

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
短期借入金	280 百万円	280 百万円
長期借入金	3,660 "	3,740 "
計	3,940 百万円	4,020 百万円

3 受取手形及び売掛金のうち、顧客との契約から生じた債権の金額及び流動負債のその他のうち、契約負債の金額は「注記事項(収益認識関係)」に記載の通りであります。

4 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金等に対して債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
夢洲コンテナターミナル(株)	705 百万円	夢洲コンテナターミナル(株) 625 百万円
NISSIN TRAVEL SERVICE(U.K.)LTD. (1,120千GBP)	170 "	NISSIN TRAVEL SERVICE(THAILAND) CO.,LTD. (20,000千THB) 73 "
NISSIN TRAVEL SERVICE(U.S.A.)INC. (1,000千USD)	110 "	NISSIN TRAVEL SERVICE(U.K.)LTD. (177千GBP) 28 "
NISSIN TRAVEL SERVICE(THAILAND) CO.,LTD. (30,000千THB)	106 "	NISSIN TRAVEL SERVICE(U.S.A.)INC. (100千USD) 12 "
NISSIN TRAVEL SERVICE(CANADA)INC. (45千CAD)	3 "	NISSIN TRAVEL SERVICE(CANADA)INC. (45千CAD) 4 "
計	1,096百万円	743 百万円

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載の通りであります。

2 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
機械装置及び運搬具	63 百万円	58 百万円
土地	331 "	0 "
その他	20 "	7 "
計	415 百万円	66 百万円

3 固定資産売却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
建物及び構築物	- 百万円	11 百万円
機械装置及び運搬具	1 "	2 "
その他	0 "	0 "
計	1 百万円	13 百万円

4 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
撤去費用	21 百万円	309 百万円
建物及び構築物	4 "	66 "
機械装置及び運搬具	4 "	11 "
その他	4 "	13 "
計	35 百万円	401 百万円

5 補助金収入

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

大田区の平和島冷蔵物流センターにおける冷却機器導入に伴う交付金の受取額であります。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

神戸市の摩耶冷蔵倉庫における冷却機器導入に伴う交付金の受取額であります。

6 特別退職金

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

連結子会社である日新（常熟）国際物流有限公司などにおける、特定顧客向け事業の縮小に伴う、従業員の退職金であります。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

連結子会社である日中平和観光株式会社、日新航空サービス株式会社などにおける、事業の縮小に伴う従業員の退職金であります。

7 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
事業用資産	東京都中野区他 (日新航空サービス株)	ソフトウェア等	225
事業用資産	東京都中央区他 (日中平和観光株)	工具器具備品等	16
合計			242

当社グループは、事業用資産については管理会計上の収益管理単位で、賃貸資産及び遊休資産については個別物件単位でグルーピングしております。

当該資産が属しております旅行事業においては、新型コロナウイルス感染症により事業環境が悪化し、当該資産の収益性が低下したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額（242百万円）を減損損失として計上しております。なお、回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから零として評価しております。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

用途	場所	種類	減損損失 (百万円)
その他	神奈川県横浜市他 (新栄運輸株)	のれん	243
その他	神奈川県横浜市他 (広栄運輸株)	のれん	34
事業用資産	東京都中野区他 (日新航空サービス株)	ソフトウェア等	14
合計			292

当社グループは、事業用資産については管理会計上の収益管理単位で、賃貸資産及び遊休資産については個別物件単位でグルーピングしております。

一部の連結子会社に係るのれんについて、想定以上の原油価格の高騰で燃料費が上昇したこと等により超過収益力が見込めなくなったことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額（278百万円）を減損損失として計上しております。

また、新型コロナウイルス感染症による事業環境の悪化により収益性が低下した旅行事業の事業用資産につき、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額（14百万円）を減損損失として計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	3,692 百万円	1,272 百万円
組替調整額	155 "	436 "
税効果調整前	3,536 百万円	836 百万円
税効果額	1,081 "	248 "
その他有価証券評価差額金	2,454 百万円	587 百万円
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	0 百万円	- 百万円
組替調整額	- "	- "
税効果調整前	0 百万円	- 百万円
税効果額	0 "	- "
繰延ヘッジ損益	0 百万円	- 百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	1,028 百万円	1,598 百万円
組替調整額	- "	- "
税効果調整前	1,028 百万円	1,598 百万円
税効果額	- "	- "
為替換算調整勘定	1,028 百万円	1,598 百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	1,577 百万円	1,004 百万円
組替調整額	289 "	18 "
税効果調整前	1,866 百万円	986 百万円
税効果額	571 "	301 "
退職給付に係る調整額	1,295 百万円	684 百万円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	118 百万円	181 百万円
その他の包括利益合計	4,896 百万円	3,052 百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	20,272,769	-	-	20,272,769

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	723,189	614,939	279,126	1,059,002

(注) 当連結会計年度末の自己株式については、従業員持株会信託が所有する当社株式555千株を含めております。

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

従業員持株会信託の買取りによる増加	614,400株
単元未満株式の買取りによる増加	539株

減少数の主な内訳は、次のとおりであります。

第三者割当による自己株式の処分(従業員持株会信託を 割当先とする第三者割当)による減少	220,000株
従業員持株会信託の売却による減少	59,100株
単元未満株式の買増請求による減少	26株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年5月25日 取締役会	普通株式	548	28.00	2020年3月31日	2020年6月9日
2020年11月9日 取締役会	普通株式	548	28.00	2020年9月30日	2020年12月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年5月24日 取締役会	普通株式	利益剰余金	539	28.00	2021年3月31日	2021年6月8日

(注) 1. 2021年5月24日取締役会の決議による配当金の総額には、従業員持株会信託に対する配当金15百万円を含めておりません。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	20,272,769	-	-	20,272,769

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,059,002	762	173,026	886,738

(注) 当連結会計年度末の自己株式については、従業員持株会信託が所有する当社株式409千株を含めております。

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 556株

持分法適用会社の持分比率変動に伴う、持分法適用関連会社が
所有する自己株式(当社株式)の当社帰属分の増加 206株

減少数の主な内訳は、次のとおりであります。

従業員持株会信託の売却による減少 145,500株

譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少 18,316株

持分法適用会社が処分した自己株式(当社株式)の
当社帰属分の減少 9,210株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年5月24日 取締役会	普通株式	539	28.00	2021年3月31日	2021年6月8日
2021年11月8日 取締役会	普通株式	541	28.00	2021年9月30日	2021年12月6日

(注) 1. 2021年5月24日取締役会の決議による配当金の総額には、従業員持株会信託に対する配当金15百万円を含めておりません。

2. 2021年11月8日取締役会の決議による配当金の総額には、従業員持株会信託に対する配当金13百万円を含めておりません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年5月23日 取締役会	普通株式	利益剰余金	621	32.00	2022年3月31日	2022年6月8日

(注) 1. 2022年5月23日取締役会の決議による配当金の総額には、従業員持株会信託に対する配当金13百万円を含めておりません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
現金及び預金勘定	18,815 百万円	19,834 百万円
預入期間が3カ月を超える定期預金	1,865 "	1,665 "
現金及び現金同等物	16,949 百万円	18,168 百万円

2 重要な非資金取引の内容

国際財務報告基準を適用している在外連結子会社において、新たに計上したIFRS第16号適用のリース取引に係る資産及び債務の額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
リース取引に係る資産の額	1,998 百万円	2,511 百万円
リース取引に係る債務の額	1,986 "	3,259 "

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

・有形固定資産

主として、物流事業におけるトランスファークレーン（機械及び装置）であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載しているため省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
1年内	303	515
1年超	232	1,179
合計	535	1,695

(注)国際財務報告基準を適用している在外連結子会社において、IFRS第16号「リース」会計基準を適用しているため、当該子会社に係るオペレーティング・リースについては、前連結会計年度及び当連結会計年度の金額には含めておりません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らし必要な資金を主に銀行借入により調達し、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金及び受取手形は、顧客の信用リスクに晒されており、当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主要な取引先の信用状況を随時把握する体制としております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。

借入金は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであります。借入金の一部は変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建の金銭債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引及び通貨スワップ取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。

デリバティブ取引の執行・管理については取引権限を定めた社内規程に従い行っております。また、営業債務や借入金は流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは各社が資金計画を作成する等の方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2021年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券			
その他有価証券	11,990	11,990	-
資産計	11,990	11,990	-
(1) 社債(1年内含む)	2,000	1,990	9
(2) 長期借入金(1年内含む)	25,273	25,050	222
負債計	27,273	27,040	231
デリバティブ取引(3)	48	48	-

- (1) 現金は記載を省略しており、預金、売掛金及び受取手形、支払手形及び買掛金、短期借入金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、記載を省略しております。
- (2) 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

区分	前連結会計年度
非上場株式	840
出資金	44
非連結子会社及び関連会社株式・出資金	3,787

- (3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

当連結会計年度（2022年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券			
その他有価証券	12,783	12,783	-
資産計	12,783	12,783	-
(1) 社債(1年内含む)	1,000	994	5
(2) 長期借入金(1年内含む)	23,735	23,433	302
負債計	24,735	24,427	308
デリバティブ取引(3)	105	105	-

- (1) 現金は記載を省略しており、預金、売掛金及び受取手形、支払手形及び買掛金、短期借入金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、記載を省略しております。
- (2) 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

区分	当連結会計年度
非上場株式	983
出資金	45
非連結子会社及び関連会社株式・出資金	4,276

- (3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2021年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	18,815	-	-	-
受取手形及び売掛金	29,837	-	-	-
合計	48,652	-	-	-

当連結会計年度(2022年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	19,834	-	-	-
受取手形及び売掛金	35,021	-	-	-
合計	54,855	-	-	-

(注2) 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2021年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
社債(1年内含む)	1,000	1,000	-	-	-	-
長期借入金(1年内含む)	3,447	2,133	3,938	4,894	8,656	2,201

当連結会計年度(2022年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
社債(1年内含む)	1,000	-	-	-	-	-
長期借入金(1年内含む)	2,142	4,594	4,599	8,433	2,111	1,853

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

当連結会計年度（2022年3月31日）

（単位：百万円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	12,783	-	-	12,783
デリバティブ取引				
通貨関連	-	105	-	105
資産計	12,783	105	-	12,888

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当連結会計年度（2022年3月31日）

（単位：百万円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
社債（1年内含む）	-	994	-	994
長期借入金（1年内含む）	-	23,433	-	23,433
負債計	-	24,427	-	24,427

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式の時価は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照ください。

デリバティブ取引

時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

通貨スワップの振当処理及び金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しており、レベル2の時価に分類しております。

社債(1年内含む)

当社の発行する社債の時価は、元利金の合計額を新規に同様の社債の発行を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

長期借入金(1年内含む)

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて現在価値を算定しており、レベル2の時価に分類しております。一部の長期借入金は通貨スワップの振当処理及び金利スワップの特例処理の対象とされており(「デリバティブ取引関係」注記参照)、当該通貨金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

前連結会計年度

1. 満期保有目的の債券(2021年3月31日)

該当事項はありません。

2. その他有価証券(2021年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	11,674	4,401	7,273
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	316	343	27
合計	11,990	4,744	7,245

3. 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

該当事項はありません。

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:百万円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	225	180	-
その他	0	-	0
合計	225	180	0

5. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券について24百万円減損処理を行っております。

なお、当該減損処理にあたっては、時価が取得原価に比べて50%程度以上下落した場合には回復可能性がないものとみなし、30%~50%程度下落した場合には個々の銘柄の下落率の推移等を勘案して時価の回復可能性の判定を行い減損処理の要否を決定しております。

当連結会計年度

1. 満期保有目的の債券(2022年3月31日)

該当事項はありません。

2. その他有価証券(2022年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	12,451	4,329	8,121
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	332	385	53
合計	12,783	4,715	8,067

3. 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:百万円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	536	436	-

5. 減損処理を行った有価証券

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(2021年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

(単位:百万円)

区分	デリバティブ取引の種類等	契約額等	契約額等のうち1年超	時価(注)	評価損益
市場取引以外の取引	通貨スワップ取引				
	ポンド支払 日本円受取	48	-	1	1
	日本円支払 米ドル受取	1,079	1,079	49	49
合計		1,128	1,079	48	48

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額等のうち1年超	時価
通貨スワップの振当処理	通貨スワップ取引	長期借入金			
	マレーシアリングット支払				
	米ドル受取		339	339	(注)
合計			339	339	-

(注) 通貨スワップの振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引	長期借入金			
	支払固定・受取変動		1,950	1,875	(注)
合計			1,950	1,875	

(注) 特例処理を採用している金利スワップについては、ヘッジ対象である長期借入金と一体として処理されているため、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2022年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

(単位:百万円)

区分	デリバティブ取引の種類等	契約額等	契約額等のうち1年超	時価(注)	評価損益
市場取引以外の取引	通貨スワップ取引 日本円支払 米ドル受取	1,079	1,079	105	105
合計		1,079	1,079	105	105

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額等のうち1年超	時価
通貨スワップの振当処理	通貨スワップ取引 マレーシアリングgit 支払 米ドル受取	長期借入金	342	313	(注)
合計			342	313	-

(注) 通貨スワップの振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	1,875	1,400	(注)
合計			1,875	1,400	

(注) 特例処理を採用している金利スワップについては、ヘッジ対象である長期借入金と一体として処理されているため、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を、確定拠出型の制度として、企業型確定拠出年金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
退職給付債務の期首残高	11,619	12,095
勤務費用	632	653
利息費用	30	31
数理計算上の差異の発生額	183	96
退職給付の支払額	369	432
退職給付債務の期末残高	12,095	12,251

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
年金資産の期首残高	8,948	10,880
期待運用収益	168	246
数理計算上の差異の発生額	1,760	908
事業主からの拠出額	144	147
退職給付の支払額	141	131
年金資産の期末残高	10,880	12,052

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,556	1,577
退職給付費用	222	308
退職給付の支払額	201	394
退職給付に係る負債の期末残高	1,577	1,490

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	12,095	12,251
年金資産	10,880	12,052
	1,214	199
非積立型制度の退職給付債務	1,577	1,490
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,791	1,689
退職給付に係る負債	4,316	3,252
退職給付に係る資産	1,525	1,563
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,791	1,689

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
勤務費用	632	653
利息費用	30	31
期待運用収益	168	246
数理計算上の差異の費用処理額	290	17
過去勤務費用の費用処理額	1	1
簡便法で計算した退職給付費用	222	308
その他	63	65
確定給付制度に係る退職給付費用	1,069	793

(注) 「その他」は、中小企業退職金共済制度への掛金支払額であります。

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
過去勤務費用	1	1
数理計算上の差異	1,868	987
合計	1,866	986

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
未認識過去勤務費用	3	1
未認識数理計算上の差異	159	828
合計	156	830

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
一般勘定	0%	0%
債券	23%	20%
株式	66%	69%
その他	11%	11%
合計	100%	100%

(注) 年金資産合計には、退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度51%、当連結会計年度54%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表しております。)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
割引率	0.3%	0.3%
長期期待運用収益率	3.6%	3.7%

3. 確定拠出制度

当社及び一部の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度240百万円、当連結会計年度304百万円です。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	609 百万円	754 百万円
貸倒引当金	62 "	61 "
長期前払費用	221 "	222 "
退職給付に係る負債	1,631 "	1,304 "
長期未払金	47 "	27 "
税務上の繰越欠損金(注)	1,328 "	1,734 "
その他	989 "	1,159 "
繰延税金資産小計	4,891 "	5,264 "
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	1,319 "	1,728 "
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	889 "	887 "
評価性引当額	2,208 "	2,616 "
繰延税金資産合計	2,682 "	2,647 "
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	650 "	634 "
その他有価証券評価差額金	2,202 "	2,451 "
その他	796 "	868 "
繰延税金負債合計	3,650 "	3,954 "
繰延税金資産(負債)の純額	967 "	1,307 "

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2021年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	43	12	14	6	7	1,243	1,328百万円
評価性引当額	43	12	14	6	7	1,235	1,319 "
繰延税金資産	-	-	-	-	-	8	(b)8 "

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金1,328百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産8百万円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込み等により回収可能と判断し、評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	12	14	5	7	1	1,692	1,734百万円
評価性引当額	12	14	5	7	1	1,687	1,728 "
繰延税金資産	-	-	-	-	-	5	(b)5 "

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金1,734百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産5百万円を計上しております。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込み等により回収可能と判断し、評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.6%	- %
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5%	-
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.7%	-
受取配当金の連結消去	3.4%	-
連結子会社との税率差異	4.7%	-
住民税均等割	1.2%	-
外国税額控除等	0.4%	-
持分法投資損益	1.2%	-
評価性引当額の増減	23.7%	-
その他	1.0%	-
税効果会計適用後の法人税等の負担率	51.2%	-

(注) 当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、神奈川県及びその他の地域において、賃貸用の土地及び施設を有しております。

2021年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は938百万円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上)であります。

2022年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は867百万円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は次のとおりであります。

(単位:百万円)

		前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	5,257	5,162
	期中増減額	94	73
	期末残高	5,162	5,236
期末時価		25,784	25,449

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少額は減価償却費68百万円、売却17百万円、減損損失8百万円であります。

当連結会計年度の主な増加額は、賃貸等不動産の取得134百万円であり、主な減少額は減価償却費54百万円、売却6百万円であります。

3. 期末の時価は、主として固定資産税評価額に基づく金額であります。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項） 4. 会計方針に関する事項（5）重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高等

(単位：百万円)

	当連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権		
受取手形	577	565
売掛金	29,112	34,309
合計	29,690	34,874
契約負債	271	242

契約負債は、主に貨物の引渡し前に顧客から受け取った対価であります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、271百万円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し、当初に予想される契約期間が1年以内の取引について注記の対象に含めておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、国際物流事業をはじめ旅行業などの関連サービスを提供しております。

従いまして、主力の国際物流事業を中心とする「物流事業」、その他関連事業である「旅行事業」及び「不動産事業」の3つを報告セグメントとしております。

「物流事業」は、国際物流を中心とした航空貨物事業や海上貨物事業などを行っております。「旅行事業」は、主力の業務渡航を中心とした旅行業を連結子会社にて行っております。「不動産事業」は、不動産売買・仲介等を専業とする連結子会社の他、物流を本業とする当社及び連結子会社において、保有資産の有効活用の観点から土地・建物等の賃貸を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当連結会計年度の「物流事業」の売上高は13,418百万円減少、セグメント利益は100百万円減少しております。「旅行事業」の売上高は5,620百万円減少しておりますが、セグメント利益に与える影響はありません。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	物流事業	旅行事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	150,476	4,194	1,245	155,915	-	155,915
セグメント間の内部 売上高又は振替高	89	19	271	379	379	-
計	150,565	4,213	1,516	156,295	379	155,915
セグメント利益又はセグメント 損失()	4,149	2,315	776	2,611	0	2,611
セグメント資産	127,590	2,852	3,406	133,849	875	132,973
その他の項目						
減価償却費	5,159	92	61	5,313	2	5,311
持分法適用会社への投資額	3,177	-	-	3,177	-	3,177
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額(注)3	10,154	22	0	10,177	-	10,177

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- セグメント利益又はセグメント損失()の調整額0百万円は、セグメント間取引消去であります。
- セグメント資産の調整額 875百万円は、セグメント間取引消去であります。
- 減価償却費には長期前払費用に係る償却費8百万円が含まれており、調整額 2百万円は、セグメント間取引消去であります。
- 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額はありません。

2. セグメント利益又はセグメント損失()は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用に係る増加額43百万円が含まれております。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	物流事業	旅行事業	不動産事業	計		
売上高						
日本	113,432	2,500	310	116,243	-	116,243
アジア	29,488	-	-	29,488	-	29,488
中国	17,322	-	-	17,322	-	17,322
米州	18,308	-	-	18,308	-	18,308
欧州	9,578	-	-	9,578	-	9,578
顧客との契約から生じる収益	188,131	2,500	310	190,942	-	190,942
その他の収益(注) 4	737	-	1,019	1,757	-	1,757
外部顧客への売上高	188,868	2,500	1,330	192,699	-	192,699
セグメント間の内部 売上高又は振替高	92	35	279	407	407	-
計	188,961	2,535	1,609	193,107	407	192,699
セグメント利益又はセグメント 損失()	9,372	1,053	765	9,084	14	9,098
セグメント資産	140,270	2,736	3,812	146,819	1,921	144,898
その他の項目						
減価償却費	5,794	22	62	5,880	2	5,878
持分法適用会社への投資額	3,737	-	-	3,737	-	3,737
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額(注) 3	5,340	16	2	5,359	-	5,359

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又はセグメント損失()の調整額14百万円は、セグメント間取引消去であります。
 - (2) セグメント資産の調整額 1,921百万円は、セグメント間取引消去であります。
 - (3) 減価償却費には長期前払費用に係る償却費 8百万円が含まれており、調整額 2百万円は、セグメント間取引消去であります。
 - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額はありません。
2. セグメント利益又はセグメント損失()は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用に係る増加額 5百万円が含まれております。
4. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入等であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	中国	米州	欧州	合計
105,870	19,612	11,806	11,899	6,726	155,915

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	中国	米州	欧州	合計
45,725	4,312	2,251	1,531	1,510	55,331

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	中国	米州	欧州	合計
118,000	29,488	17,322	18,308	9,578	192,699

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	中国	米州	欧州	合計
46,487	4,423	2,196	1,625	1,882	56,616

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				全社・消去	合計
	物流事業	旅行事業	不動産事業	計		
減損損失	-	242	-	242	-	242

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				全社・消去	合計
	物流事業	旅行事業	不動産事業	計		
減損損失	278	14	-	292	-	292

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及び その近親 者が議決 権の過半 数を所有 している 会社等	日新商事㈱ (注1)	東京都 港区	3,624	石油関連事 業等	(所有) 直接14.7	営業取引	固定資産の 取得(注2)	1,710	土地 建物等	1,708

(注) 1. 当社代表取締役社長 筒井雅洋の近親者が、代表取締役社長を務めております。

2. 日新商事㈱からの固定資産の購入額については、社外の不動産鑑定士による調査報告書を参考にし、協議の上決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
1株当たり純資産額	3,296.04円	3,693.10円
1株当たり当期純利益	103.55円	329.61円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. (会計方針の変更)に記載のとおり、当連結会計年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額は8円48銭減少し、1株当たり当期純利益は3円62銭減少しております。

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	2,007	6,365
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	2,007	6,365
普通株式の期中平均株式数(千株)	19,384	19,313

株主資本において自己株式として計上されている従業員持株会信託に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前連結会計年度238千株、当連結会計年度474千株であります。

4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	65,848	74,406
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	2,518	2,812
(うち非支配株主持分)	(2,518)	(2,812)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	63,329	71,594
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	19,213	19,386

株主資本において自己株式として計上されている従業員持株会信託に残存する自社の株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末の普通株式の数の計算において控除する自己株式に含めております。1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は、前連結会計年度555千株、当連結会計年度409千株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
(株)日新	第15回無担保社債	2015年3月25日	1,000	-	年0.58	無担保社債	2022年3月25日
	第16回無担保社債	2015年9月30日	1,000	1,000 (1,000)	年1.00	無担保社債	2022年9月30日
合計			2,000	1,000 (1,000)			

- (注) 1. 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。
2. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額は次のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
1,000				-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,123	5,255	0.635	
1年以内に返済する長期借入金	3,447	2,142	1.093	
1年以内に返済するリース債務	2,377	2,208		
長期借入金 (1年以内に返済するものを除く。)	21,825	21,592	1.064	2023年～2040年
リース債務 (1年以内に返済するものを除く。)	3,107	3,201		2023年～2036年
合計	34,881	34,400		

- (注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額を連結貸借対照表に計上しているため記載しておりません。
2. 1年以内に返済予定の長期借入金は、連結貸借対照表においては流動負債の「短期借入金」に含めて表示しております。
3. 長期借入金のうち神奈川県横浜市からの借入金(当期末残高1,500百万円)は無利息であります。
4. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済するものを含む。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,142	4,594	4,599	8,433	2,111
リース債務	2,208	1,347	707	480	275

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	42,301	85,931	136,934	192,699
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	2,027	3,554	6,469	9,380
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	1,373	2,364	4,362	6,365
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	71.37	122.67	226.10	329.61

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	71.37	51.35	103.33	103.42

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,652	5,290
受取手形	420	398
売掛金	2 18,434	2 21,089
原材料及び貯蔵品	15	21
前払費用	2 507	2 1,162
短期貸付金	11	11
関係会社短期貸付金	634	2,016
関税運賃等立替金	2 1,061	2 1,376
その他	2 553	2 618
貸倒引当金	135	237
流動資産合計	29,156	31,748
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 12,519	1 14,681
構築物	1 849	1 1,028
機械及び装置	1 1,574	1 1,680
車両運搬具	248	174
工具、器具及び備品	177	194
土地	1 16,754	1 17,533
建設仮勘定	2,403	39
有形固定資産合計	34,526	35,332
無形固定資産		
借地権	501	497
ソフトウェア	349	601
電話加入権	57	57
その他	397	5
無形固定資産合計	1,305	1,162
投資その他の資産		
投資有価証券	12,404	13,249
関係会社株式	9,163	8,871
出資金	3	3
関係会社出資金	1,577	1,577
長期貸付金	281	269
関係会社長期貸付金	2,535	2,228
破産更生債権等	74	108
長期前払費用	72	112
前払年金費用	1,650	1,810
敷金	2 855	2 1,028
差入保証金	2 1,283	2 1,455
その他	192	186
貸倒引当金	91	336
投資その他の資産合計	30,002	30,563
固定資産合計	65,834	67,059
資産合計	94,991	98,807

(単位：百万円)

	前事業年度 (2021年3月31日)		当事業年度 (2022年3月31日)	
負債の部				
流動負債				
買掛金	2	9,412	2	10,622
1年内償還予定の社債		1,000		1,000
短期借入金		3,400		4,400
1年内返済予定の長期借入金	1	3,392	1	2,052
関係会社短期借入金		3,970		4,234
リース債務		112		50
未払金	2	263	2	147
未払費用	2	474	2	867
未払法人税等		818		1,145
預り金		301		106
関税運賃等預り金	2	1,856	2	2,624
賞与引当金		1,368		1,514
役員賞与引当金		15		68
その他		-		26
流動負債合計		26,385		28,860
固定負債				
社債		1,000		-
長期借入金	1、2	21,855	1、2	21,641
リース債務		250		112
長期未払金		34		34
繰延税金負債		839		933
退職給付引当金		2,709		2,839
資産除去債務		136		308
長期預り金	2	658	2	707
固定負債合計		27,483		26,578
負債合計		53,869		55,439
純資産の部				
株主資本				
資本金		6,097		6,097
資本剰余金				
資本準備金		4,366		4,366
その他資本剰余金		176		175
資本剰余金合計		4,542		4,542
利益剰余金				
利益準備金		1,524		1,524
その他利益剰余金				
固定資産圧縮積立金		1,474		1,438
別途積立金		15,500		15,500
繰越利益剰余金		8,603		10,123
利益剰余金合計		27,102		28,586
自己株式		1,471		1,242
株主資本合計		36,271		37,983
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金		4,850		5,384
評価・換算差額等合計		4,850		5,384
純資産合計		41,121		43,368
負債純資産合計		94,991		98,807

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月 31日)		当事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)	
売上高	1	98,062	1	112,350
売上原価	1	90,141	1	101,362
売上総利益		7,920		10,988
販売費及び一般管理費	1、 2	5,722	1、 2	6,753
営業利益		2,198		4,234
営業外収益				
受取利息	1	26	1	30
受取配当金	1	776	1	1,108
受取賃貸料	1	38	1	52
為替差益		15		-
その他	1	220	1	183
営業外収益合計		1,077		1,375
営業外費用				
支払利息	1	251	1	261
社債利息		15		15
為替差損		-		140
その他	1	113	1	45
営業外費用合計		380		463
経常利益		2,895		5,146
特別利益				
投資有価証券売却益		180		433
補助金収入		56		90
固定資産売却益		372		3
特別利益合計		610		527
特別損失				
関係会社株式評価損		155		822
固定資産除却損		24		378
貸倒引当金繰入額		-		376
固定資産売却損		-		5
投資有価証券評価損		24		-
特別損失合計		205		1,583
税引前当期純利益		3,300		4,091
法人税、住民税及び事業税		961		1,561
法人税等調整額		5		141
法人税等合計		967		1,420
当期純利益		2,333		2,670

【売上原価明細書】

区分	前事業年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)		当事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)		
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	
1 下払作業費		76,645	85.3	87,289	86.3
2 労務費		9,835	10.9	10,055	9.9
(うち賞与引当金繰入額)		(1,017)		(1,142)	
(うち退職給付費用)		(665)		(403)	
3 経費					
減価償却費	1,352			1,629	
賃借料	512			626	
租税公課	412			412	
その他	1,153	3,431	3.8	1,185	3.8
物流事業売上原価		89,912	100.0	101,198	100.0
1 下払作業費		174	75.9	106	65.3
2 労務費		0	0.0	0	0.0
3 経費					
減価償却費	1			1	
賃借料	-			-	
租税公課	53			54	
その他	0	55	24.1	0	34.7
不動産事業売上原価		229	100.0	163	100.0

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
						固定資産 圧縮積立金	別途積立金
当期首残高	6,097	4,366	151	4,517	1,524	1,340	15,500
会計方針の変更による 累積的影響額							
会計方針の変更を反映し た当期首残高	6,097	4,366	151	4,517	1,524	1,340	15,500
当期変動額							
剰余金の配当							
当期純利益							
固定資産圧縮積立金の 積立						225	
固定資産圧縮積立金の 取崩						91	
自己株式の取得							
自己株式の処分			24	24			
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	24	24	-	134	-
当期末残高	6,097	4,366	176	4,542	1,524	1,474	15,500

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余 金	利益剰余金 合計					
	繰越利益 剰余金						
当期首残高	7,500	25,865	1,022	35,458	2,468	2,468	37,927
会計方針の変更による 累積的影響額				-			-
会計方針の変更を反映し た当期首残高	7,500	25,865	1,022	35,458	2,468	2,468	37,927
当期変動額							
剰余金の配当	1,096	1,096		1,096			1,096
当期純利益	2,333	2,333		2,333			2,333
固定資産圧縮積立金の 積立	225	-		-			-
固定資産圧縮積立金の 取崩	91	-		-			-
自己株式の取得			850	850			850
自己株式の処分			402	426			426
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					2,381	2,381	2,381
当期変動額合計	1,102	1,236	448	812	2,381	2,381	3,194
当期末残高	8,603	27,102	1,471	36,271	4,850	4,850	41,121

当事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
						固定資産 圧縮積立金	別途積立金
当期首残高	6,097	4,366	176	4,542	1,524	1,474	15,500
会計方針の変更による 累積的影響額							
会計方針の変更を反映し た当期首残高	6,097	4,366	176	4,542	1,524	1,474	15,500
当期変動額							
剰余金の配当							
当期純利益							
固定資産圧縮積立金の 積立						63	
固定資産圧縮積立金の 取崩						99	
自己株式の取得							
自己株式の処分			0	0			
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	0	0	-	35	-
当期末残高	6,097	4,366	175	4,542	1,524	1,438	15,500

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余 金	利益剰余金 合計					
	繰越利益 剰余金						
当期首残高	8,603	27,102	1,471	36,271	4,850	4,850	41,121
会計方針の変更による 累積的影響額	75	75		75			75
会計方針の変更を反映し た当期首残高	8,527	27,026	1,471	36,195	4,850	4,850	41,045
当期変動額							
剰余金の配当	1,109	1,109		1,109			1,109
当期純利益	2,670	2,670		2,670			2,670
固定資産圧縮積立金の 積立	63	-		-			-
固定資産圧縮積立金の 取崩	99	-		-			-
自己株式の取得			0	0			0
自己株式の処分			229	228			228
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					534	534	534
当期変動額合計	1,596	1,560	228	1,788	534	534	2,322
当期末残高	10,123	28,586	1,242	37,983	5,384	5,384	43,368

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

其他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの...時価法によっております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、
売却原価は移動平均法により算定しております。)

市場価格のない株式等 ...移動平均法による原価法によっております。

(2) 原材料及び貯蔵品

総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(3) デリバティブ

時価法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

リース資産以外の有形固定資産

定率法によっております。ただし、建物並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

(2) 無形固定資産

定額法によっております。なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 長期前払費用

均等償却によっております。なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛金、貸付金等債権の回収不能に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与支給に充当するため、支給見込額基準により計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与支給に充当するため、支給見込額に基づき、当事業年度に見合う額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額のうち、一時金については退職給付引当金、年金制度については前払年金費用へ計上しております。

なお、過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額を費用処理しております。

また、数理計算上の差異については、各事業年度における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額を、発生の翌事業年度から費用処理しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、海上貨物輸送業務、航空貨物輸送業務、自動車運送業務、倉庫業務、構内作業業務等の物流事業を主な事業としております。これらのサービスについては、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点（貨物の引渡し時等）で収益を認識しております。

なお、一部の国際輸送に係る業務については当社の役割が代理人に該当すると判断されることから、他の当事者が提供するサービスと交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

取引の対価は、履行義務を充足してから1年以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 繰延資産の処理方法

社債発行費については、支出時に全額費用処理しております。

(2) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ等のヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。ただし、先物為替予約取引及び通貨スワップ取引については、振当処理の要件を満たす場合には、振当処理を採用し、特例処理の要件を満たす金利スワップ取引については、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)

デリバティブ取引（先物為替予約取引、通貨スワップ及び金利スワップ取引）

(ヘッジ対象)

外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引、借入金利息

ヘッジ方針

当社は、為替変動リスク及び金利変動リスクを回避する事を目的として、対象資産・負債の限度内でのデリバティブ取引を行っております。

ヘッジ有効性の評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。なお、振当処理及び特例処理を採用しているものについては、その要件を満たしていることをもってヘッジの有効性の判定に代えております。

その他のリスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの

通常の営業取引に係る為替相場変動リスク回避策の一手段として、実需及び将来発生が予定される営業取引の一部について、全体のポジション及び予想ポジションを把握した後、同一通貨建ポジション残高の範囲内において先物為替予約を実行しております。なお、先物為替予約取引、通貨スワップ及び金利スワップ取引は、取引の都度社内の承認手続きに則り承認を受け実行しております。その結果は取締役会に報告することになっております。

(重要な会計上の見積り)

(物流事業に属する有形固定資産の減損損失の認識の要否)

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(百万円)

	前事業年度	当事業年度
有形固定資産	28,910	31,058

当社における物流事業の中でも、倉庫事業、自動車運送事業、港湾運送事業などについては、サービスの品質向上のために、物流施設への設備投資を計画的に実施しております。近年、特に新倉庫建設や土地取得などによる物流施設の充実に努めており、金額的重要性が高まっております。

当社の物流事業において、保有する有形固定資産（帳簿価額31,058百万円）のうち、一部の資産グループについては継続して営業損失が計上されていることなどから、減損の兆候があると判断しました。

減損の兆候があると認められた資産グループ（帳簿価額3,115百万円）について、減損損失の計上の要否について検討を行った結果、割引前将来キャッシュ・フローの総額が当該資産グループの固定資産の帳簿価額を超えることと判断したため、減損損失は計上しておりません。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

(1) の金額の算出方法は、連結財務諸表「注記事項（重要な会計上の見積り）物流事業に属する有形固定資産の減損損失の認識の要否」の内容と同一であります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、当社の海上輸送サービスの一部の収益については、収益認識の計上日を変更しております。また、一部の国際輸送サービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引について、従来は総額で収益を認識しておりましたが、純額で収益を認識する方法に変更しております。

この結果、従来の会計処理と比べて、当事業年度の売上高は10,347百万円減少し、売上原価は10,298百万円減少し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ48百万円減少しております。また、繰越利益剰余金の当期首残高は75百万円減少しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の繰越利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、当事業年度に係る財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

当事業年度より、新たな基幹システムの導入を契機に、収支管理方法を見直しました。経営成績をより適切に表示するため、従来「販売費及び一般管理費」に含めていた、フォワーディング業務等における人件費・経費の一部を「売上原価」として計上しております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「販売費及び一般管理費」に表示していた5,221百万円を「売上原価」に組み替えております。

また、当該変更に伴い、前事業年度の売上原価明細書の組替えを行っております。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引については、連結財務諸表「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産並びに担保付債務は、次のとおりであります。

担保に供している資産

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
建物	4,476 百万円	4,228 百万円
構築物	15 "	10 "
機械及び装置	112 "	106 "
土地	4,902 "	4,902 "
計	9,507 百万円	9,247 百万円

担保権によって担保されている債務

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	280 百万円	280 百万円
長期借入金	3,660 "	3,740 "
計	3,940 百万円	4,020 百万円

2 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
短期金銭債権	2,218 百万円	2,742 百万円
長期金銭債権	111 "	112 "
短期金銭債務	3,591 "	4,889 "
長期金銭債務	1,079 "	1,079 "

3 保証債務

下記の会社の金融機関等からの借入金等に対して債務保証を行っております。

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
夢洲コンテナターミナル(株)	705 百万円	NISSIN TRANSPORT GmbH (4,596千EUR) 628 百万円
NISSIN LOGISTICS POLAND SP.ZO.O. (3,057千EUR)	396 "	夢洲コンテナターミナル(株) 625 "
NISSIN TRANSPORT(S)PTE.LTD. (4,791千SGD)	394 "	NISSIN TRANSPORT(S)PTE.LTD. (4,479千SGD) 405 "
NISSIN TRANSPORT GmbH (2,969千EUR)	385 "	NISTRANS(M)SDN.BHD. (12,645千MYR) 368 "
NISTRANS(M)SDN.BHD. (13,652千MYR)	363 "	NISSIN LOGISTICS POLAND SP.ZO.O. (2,297千EUR) 314 "
NISSIN ABC LOGISTICS PVT.LTD. (69,000千INR)	104 "	NISSIN (U.K.) LTD. (1,800千GBP) 289 "
NISTRANS INTERNACIONAL DE MEXICO,S.DE R.L.DE C.V. (900千USD)	99 "	NISTRANS INTERNACIONAL DE MEXICO,S.DE R.L.DE C.V. (900千USD) 110 "
その他	264 "	その他 317 "
計	2,715 百万円	計 3,057 百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	5,925 百万円	8,316 百万円
仕入高	22,978 "	28,976 "
営業取引以外の取引による取引高	601 "	867 "

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
給料及び手当	2,235 百万円	2,847 百万円
賞与引当金繰入額	350 "	372 "
役員賞与引当金繰入額	15 "	68 "
貸倒引当金繰入額	101 "	1 "
減価償却費	215 "	376 "
おおよその割合		
販売費	13.2%	8.6%
一般管理費	86.8 "	91.4 "

(有価証券関係)

前事業年度(2021年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	前事業年度 (百万円)
子会社株式	9,066
関連会社株式	96
合計	9,163

当事業年度(2022年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がない株式等のため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	当事業年度 (百万円)
子会社株式	8,774
関連会社株式	96
合計	8,871

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	418百万円	463百万円
貸倒引当金	74 "	175 "
長期前払費用	221 "	222 "
退職給付引当金	1,127 "	1,149 "
関係会社株式	1,166 "	1,418 "
資産除去債務	38 "	38 "
その他	171 "	229 "
繰延税金資産小計	3,219 "	3,697 "
評価性引当額	1,269 "	1,622 "
繰延税金資産合計	1,949 "	2,074 "
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	650 "	634 "
その他有価証券評価差額金	2,138 "	2,374 "
その他	0 "	- "
繰延税金負債合計	2,788 "	3,008 "
繰延税金資産(負債)の純額	839 "	933 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6%	0.4%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	4.5%	5.5%
住民税均等割	1.6%	1.3%
外国税額控除等	0.5%	0.7%
税額控除	-	1.2%
評価性引当額の増減	1.1%	8.6%
その他	0.6%	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.3%	34.6%

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首 残 高	当 期 増加額	当 期 減少額	当 期 償却額	当期末 残 高	減価償却 累 計 額
有形固定資産	建 物	12,519	3,250	22	1,065	14,681	26,908
	構 築 物	849	300	50	71	1,028	4,018
	機械及び装置	1,574	457	2	348	1,680	4,239
	車両運搬具	248	103	84	93	174	1,214
	工具、器具及び備品	177	111	12	81	194	905
	土 地	16,754	779	-	-	17,533	-
	建設仮勘定	2,403	34	2,398	-	39	-
	計	34,526	5,037	2,570	1,660	35,332	37,287
無形固定資産	借 地 権	501	-	-	3	497	723
	ソフトウェア	349	504	-	252	601	3,545
	電話加入権	57	-	-	-	57	-
	そ の 他	397	0	392	0	5	6
	計	1,305	505	392	255	1,162	4,275

(注) 1. 「当期増加額」欄のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	横浜重量物梱包センター	取得	2,690	百万円
構築物	横浜重量物梱包センター 外構工事	"	236	"
機械及び装置	摩耶冷蔵倉庫 自然冷媒機器	"	276	"
土地	横浜市平安町・川崎市塩浜事業用地	"	779	"
ソフトウェア	新基幹システムLESTER	"	406	"

2. 「当期減少額」欄のうち主なものは、次のとおりであります。

建設仮勘定	横浜重量物梱包センター	建物等への振替	2,397	百万円
その他	新基幹システムLESTER	ソフトウェアへの振替	390	"

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	227	475	128	573
賞与引当金	1,368	1,514	1,368	1,514
役員賞与引当金	15	68	15	68

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り及び買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
手数料	無料
公告掲載方法	電子公告 (https://www.nissin-tw.com/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の単元未満株主は、以下に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 取得請求権付株式の取得を請求する権利
3. 募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利
4. 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第112期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日） 2021年6月24日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2021年6月24日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第113期第1四半期（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日） 2021年8月10日関東財務局長に提出。

第113期第2四半期（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日） 2021年11月10日関東財務局長に提出。

第113期第3四半期（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日） 2022年2月14日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

2021年6月24日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）の規定に基づく臨時報告書

2022年3月10日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2022年 6月24日

株式会社日新
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 本 哲 也

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 康 恩 実

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社日新の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社日新及び連結子会社の2022年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

物流事業に属する有形固定資産の減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>株式会社日新の当連結会計年度の連結貸借対照表には、有形固定資産56,616百万円が計上されている。注記事項「(重要な会計上の見積り)」に記載されているとおり、会社の物流事業に属する有形固定資産は主に倉庫等の物流施設であり、それらの残高は31,058百万円と連結貸借対照表上の有形固定資産の55%を占めている。</p> <p>会社は、物流事業に属する有形固定資産については、原則として管理会計上の収益管理単位である営業部店単位でグルーピングしている。このうち、減損の兆候があると認められる資産又は資産グループについては、主要な資産の経済的残存使用年数を基礎として将来キャッシュ・フローの見積期間を決定したうえで、割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否を判定している。減損損失の認識が必要と判定された場合、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額は減損損失として計上される。</p> <p>当連結会計年度において、会社の物流事業に属する資産又は資産グループのうち、減損の兆候があると認められたもの(帳簿価額3,115百万円)については減損損失の認識の要否の判定が行われている。当該判定に用いられる将来キャッシュ・フローの見積りは、経営者が作成した営業部店の将来計画を基礎として行われるが、将来計画には営業部店ごとの主要顧客からの受注見込みやコスト削減の施策など一定の仮定が含まれており、その実現可能性には不確実性が伴うほか、経営者による主観的な判断も含まれるため、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす。</p> <p>以上から、当監査法人は、会社の物流事業に属する有形固定資産の減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、「監査上の主要な検討事項」に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、会社の物流事業に属する有形固定資産の減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性を検討した。具体的には、減損の兆候があると判定された営業部店について、将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となった将来計画に含まれる主要な仮定などの適切性を評価するため、主に以下の手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来キャッシュ・フローの見積期間の適切性を確かめるため、主要な資産の特定方法及び経済的残存使用年数の決定方法の妥当性を検討した。 営業部店ごとの将来計画の基礎となる主要顧客からの受注見込みやコスト削減の施策など一定の仮定の適切性を確かめるため、営業部店の責任者に質問をし、また、外部調査機関が公表している物流業界の需要動向との整合性を確かめた。 過去の営業部店ごとの計画の達成状況を把握し、計画と実績との差異に関する原因についての検討結果を踏まえて、将来計画に対する一定の不確実性を織り込んだ場合の減損損失の認識の要否の判定に与える影響を検討した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社日新の2022年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社日新が2022年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2022年 6月24日

株式会社日新
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 本 哲 也

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 康 恩 実

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社日新の2021年4月1日から2022年3月31日までの第113期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社日新の2022年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

(物流事業に属する有形固定資産の減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性)

個別財務諸表の監査報告書に記載すべき監査上の主要な検討事項「物流事業に属する有形固定資産の減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性」は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項「物流事業に属する有形固定資産の減損損失の認識の要否に関する判断の妥当性」と実質的に同一の内容である。このため、個別財務諸表の監査報告書では、これに関する記載を省略する。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。